

第三十六回 衆議院議事速記錄第十二號

大正四年六月五日(土曜日)午後一時十四分開議

議事日程 第十一號 大正四年六月五日 午後一時開議

第一 無線電信法案(政府提出)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 法人ノ役員處罰ニ關スル法律案(政府提出)

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

明治四十五年度豫備金支出ノ件

明治四十五年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

明治四十五年度特別會計豫備金支出ノ件

明治四十五年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度豫備金支出ノ件

大正二年年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金支出ノ件

大正二年年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

承諾ヲ求ムル件 (委員長報告)

第一讀會

第一讀會

支那内地佛教布教權ニ關スル建議案

提出者 井手三郎君 龍口了信君 小林嘉平治君

金尾稜嚴君 小山松壽君 紫安新九郎君

伊東知也君 一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

教育ニ關スル質問

提出者 小橋藻三衛君

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

昨日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

要塞地帶法中改正法律案

岡部次郎君 磯貝浩君

小橋藻三衛君 佐藤政五郎君

西田庄助君 加藤定吉君

醫師法中改正法律案

山根正次君 室水彌次郎君

鈴木萬次郎君 犬飼源太郎君

航空事業費國庫補助ニ關スル建議案

杉山四五郎君 齋藤喜十郎君

杉山東太郎君 大原義剛君

大場竹次郎君 相島勘次郎君

成清博愛君 原本大三郎君

議長(島田三郎君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一、無線電信法案ヲ議題ト致シマシテ第一讀會ヲ開キマス、武富通信大臣

第一 無線電信法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

無線電信法

第一條 無線電信及無線電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲クル無線電信又ハ無線電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ私設スルコトヲ得

第三條 航行ノ完全ニ備フル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

第四條 同一人ノ特定事業ニ用ウル船舶相互間ニ於テ其ノ事業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

第五條 電報送受ノ爲電信官署ト間ニ施設者ノ專用ニ供スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第六條 電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナク前號ノ規定ニ依ルヲ不適當トスル陸地相互間又ハ陸地船舶間ニ於テ同一人ノ特定事業ニ用ウル目的ヲ以テ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第七條 無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第八條 無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第九條 無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第十條 無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第十一條 無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第十二條 無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第十三條 無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

第十四條 無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

五 無線電信又ハ無線電話ニ關スル實驗ニ專用スル目的ヲ以テ施設スル

モ

六 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ施設ノ必要アリト認メタルモノ

第三條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置及運用ニ關スル制限

第四條 私設ノ無線電信及無線電話ハ其ノ施設ノ目的以外ニ使用スルコト

第五條 外國船舶ニ裝置シタル無線電信又ハ無線電話ハ第二條ノ規定ニ依

第六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ

第七條 主務大臣ハ公衆通信上又ハ軍事上必要ト認ムルトキハ私設ノ無線

第八條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ私設ノ無線電信、無線電

第九條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ施設者本法ニ基キテ發スル

第十條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ施設者其ノ無線電信又ハ無線電話

第十一條 私設ノ無線電信、無線電話又ハ外國船舶ニ施設シタル無線電信、

第十二條 無線電信又ハ無線電話ハ船舶遭難通信アリタル場合ニ於テハ直

第十三條 主務大臣ハ不法ニ無線電信又ハ無線電話ヲ施設スル者アリト認

第十四條 政府ハ公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ爲

第十五條 前項ノ場合ニ於テ相當ノ使用料及特殊ノ供給設備ノ實費ハ請求ニ因リ

第十六條 許可ナクシテ無線電信、無線電話ヲ施設シ若ハ許可ナクシテ施

第十七條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタ

第十八條 第五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本法ニ依ル無線電信、無線電

前項ノ場合ニ於テ相當ノ使用料及特殊ノ供給設備ノ實費ハ請求ニ因リ

第十五條 公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ依リ通信ニシテ

第十六條 許可ナクシテ無線電信、無線電話ヲ施設シ若ハ許可ナクシテ施

第十七條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタ

第十八條 第五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本法ニ依ル無線電信、無線電

第十九條 第六條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ無線電信、無線電話ノ

第二十條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル無線電信又ハ無線電話ノ

第二十一條 不法ニ無線電信、無線電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシ

第二十二條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第二十三條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第二十四條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第二十五條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第二十六條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第二十七條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第二十八條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第二十九條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第三十條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第三十一條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

第三十二條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者第一項ノ行為ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金、第二項ノ行為ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役第三項ノ行為ヲ爲シタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二十三條 無線電信ノ事務ニ從事スル者電信官署ノ取扱中ニ係ル無線電信ニ依ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタルトキ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第二十四條 無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依ル船舶遭難通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二十五條 無線電信、無線電話ニ依ル公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ障礙シ又ハ之ヲ障礙スヘキ行為ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條 本法ニ基キテ爲ス當該吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ第十三條ノ規定ニ依ル検査ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條 電信法第四條、第五條、第十一條乃至第二十一條、第二十二條、第二十四條及第四十五條ノ規定ハ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(遞信大臣武富時敏君登壇)

○遞信大臣(武富時敏君) 無線電信ト申シマスノハ、申スマデモナク最も新シ通信機關デゴザイマシテ、我國デ此無線電信ノ事業ヲ始メマシタルハ明治四十一年、マダ極メテ日モ淺イノデゴザイマシガ、年々長足ノ進歩ヲ致シマシテ、今日デハ無線電信局ガ凡ソ六十ノ局ヲ數ヘルコトニナツテ居リマス、一年間ニ取扱フ無線電信ノ通信ガ、凡ソ八万通ト云フ多キニ達スル位ニナリマシテ、今後ハ益々其發達ノ速カナルコトデアラウト想像サレ、御承知ノ通りニ海上ニ於ケル唯一ノ通信機關デゴザイマシカ、航海業ノ發達ト共ニ、益々此無線電信ノ需要ハ増加スルコトデアラウト思フノデアリマス、然ルニ此無線電信ハヤリ電信法ノ明文ニ依テ、政府ノ之ヲ管掌スト云フコトニナツテ居リマス、專ラ政府ノ管掌スル所デゴザイマシカ、一私人又ハ一事業ノ爲ニ、無線電信ヲ設置シタイト申シマシテモ、之ヲ認ムルコトハ出來マセヌ、是ハ從來法律ノ不備トシテ感ゼラレテ居ルノデアリマス、所ガ御承知モゴザイマセウ、一昨年倫敦ニ於ケル海上生命保全ニ關スル會議ガゴザイマシテ、之ニ加盟シタル國ハ、五十人以上乗組ノ船舶ニ對シテハ無線電信ノ裝置ヲ強制スルト云フコトニナツテ居リマス、ソレデ英國其他ノ國モ、ヤハリ無線電信ノ裝置ヲ船舶ニ強制スルト云フコトニナツテ居リマス、差向キ英國ガ此七月一日カラ

其強制ヲ實行スルト云フコトニナツタ趣、近頃電信ノ報知ガゴザイマシカ、ソレデ差向キ香港、新嘉坡、孟買又ハ濠洲方面ニ向ヒマス船舶ハ、ドウシテモ此無線電信ノ裝置ヲシナケレバ、其港ニ入ルコトモ出來ナイト云フコトニナリマス、從テ我國ノ船舶ニモ無線電信ノ裝置ヲ要スルノガ數十艘ノ多キニ達スルノデアリマス、所ガソレニ一々政府ノ官設ニ係ル無線電信局ヲ置クト云フコトハ、到底豫算ノ關係其他ノ事情ニ於テ出來マセヌ、ソレ故ニ今度新タニ此無線電信法ト云フモノヲ制定シマシテ、政府ノ專掌ノ主義ニ悖ラザル範圍ニ於テ、私設ヲ認メタルト云フコトニシタイト思フノデアリマス、其必要ヨリシテ此法律案ヲ提出シタ次第デゴザイマシカ、此法案ニ規定シテアリマスル内容ノ現行ノ制度ニ異ナル主ナル點ヲ申上ケマスレバ、一定ノ範圍及ビ使用上ノ制限ヲ附シテ私設ヲ認メタルコト、私設者ニ對シ特別義務ヲ定メタルコト、外國船舶ノ領水内使用ヲ制限シタルコト、不法施設及ビ不法使用其他通信濫用妨害ニ對シ制裁ヲ設ケタルコト、是等ガ主ナル點デゴザイマス、殊ニ私設ヲ認メタル關係上、取締ヲ嚴重ニ致シマシテ、比較的懲罰ヲ重クシタル所モゴザイマス、無論電信ノ不法使用又ハ濫用ノ結果、國家社會ニ惡影響ヲ與ヘルコトガナイトモ限リマセヌカラ、其邊ヲ考慮致シマシテ、此刑罰ノ途ヲ設ケタルデアリマス、尙又無線電話ト云フモノハマダ研究中ニ屬シテ、實際ニ其事業ヲ開始シタルデアゴザイマセヌガ、遞信省ニ於キマシテハ年來研究致シテ居リマス、其結果ハ至テ良好デゴザイマス、是モ遠カラズ必ズ實施ヲ見ルノ期デアラウト思フノデアリマス、是亦無線電信法ノ中ニ包含シテ、無線電信ト殆ド其性質ヲ同ジウシテ居リマス、其規定ヲ設ケテ將來ノ發展ニ備ヘタイト思フノデアリマス、サウ云フ趣意デ此法律案ハ出來テ居リマス、幸ニ貴族院ノ可決ヲ經マシテ當院ニ送付シ來タノデアリマス、宜シク御審議ノ上御賛成ヲ願ヒマス

○議長(島田三郎君) 根本正君

○根本正君 チョット大臣ニ御尋シタイトガアリマス、本案ハ第三條ニ「私設無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置及運用ニ關スル制限並私設ノ無線電信ノ通信ニ從事スル者」資格ハ命令ノ定ムル所ニ依ル」ト書イテアリマスガ、交通機關ハ我國ニ於キマシテハ鐵道モ國有ニナリ、又郵便モ國有ニナリ、僅ニ電話ノ如キガ私設ヲ許サレテ居ル部分モアリマスガ、此無線電信ヲ私設ニ許ス以上ハ、法人ノ會社ヲ設ケマシタルハ、ヤハリ此外國人ノ私設ニ係ル會社、即チ帝國臣民ト外國ノ者ト共ニ一會社ヲ立テマシタナラバ、是ニモ許可ニナル譯デアリマセウカ、茲ニ命令ニ定ムル所トアリマスカラシテ、其邊モ既ニ內規ガ出來ニナツテアルデアラウト思ヒマスガ、此事ニ付テ御說明ヲ伺フデ置キタイト思ヒマス、是ハ重大ナル問題デ、例ヘバ亞米利加ノ如キモノハ一個人ニシテ數萬圓ノ資本ヲ以テ、斯ク如キ會社ヲ立テタルコトハ常ニアルノデアリマス、故ニ共同デヤハリ彼ノ室蘭ノ製鐵所ノ如キ數千萬圓ノ會社ヲ協力シテ拵ヘタナラバ、此交通機關ノ權利ヲ私設會社ニ御許シタルモノデアリマセウカ、其邊フ伺フデ置キマス

○議長(島田三郎君) 武富遞信大臣

(遞信大臣武富時敏君登壇)

○遞信大臣(武富時敏君) 唯今ノ御尋ノ趣意ヲ能ク了解シ兼ネマスガ、是ハ一個人又ハ一會社ノ特別ノ事業上、通信ヲ取扱フ無線電信ノ裝置ヲ許スノデ、公衆ノ通信ヲ取扱ハセルヤウナコトハ容易ニ許シマセヌ、ソレデ御尋ハ大概御分リニナリハ致シマセヌカ

○議長(島田三郎君) 根本正君

○根本正君 ヤハリサウスルト外國人ノ會社ニモ御許ニナルノデアリマスカ

○議長(島田三郎君) 武富遞信大臣

移リマス、日程第四、右讀案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○荒川五郎君 議長

○議長(島田三郎君) 荒川五郎君

○荒川五郎君 本案モ九名ノ委員ヲ議長ニ於テ御指名アランコトヲ望ミマス

(「賛成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 御異議ガナイト認メマス、依テ荒川君ノ動議ノ如ク決シマシ

タ、日程第五……

○小久保喜七君 私ハ日程ヲ變更シテ總理大臣ニ向テ緊急ノ質問ヲ致ス、此事ハ

事柄ハ簡單デゴザイマス、皇室ニ關係ヲ致シマス、又最も緊急ヲ要シマスコトデゴザイ

スカラ、ドウカ満場ノ諸君ガ少時間デゴザイマスカラ御許可ヲ……

○議長(島田三郎君) 緊急デアアルカナイカラ確メルタメニ、案件ヲ一言御申述ベヲ請

ヒタイ

○小久保喜七君 ツレデハ私ハ登壇致シマス

(「小久保喜七君登壇」)

(「拍手起ル」題目ヲチヨット言ヒ給ヘ」ト呼フ者アリ)

○小久保喜七君 事皇室ニ關係ヲ致スト云フコトヲ申上ゲマシタノニ、演壇デ口ヲ利

カヌ中ニ御彌次リニナルト云フコトハ少シク反對黨ノ諸君モ御注意ガ宜カラウト思フ、私

ノ總理大臣ニ質疑ヲ致シタイト思ヒマスコトハ、最も緊急ノコトデアリマス、其緊急ノ事

ハ何デアルト云フノ今日ノ各新聞ニゴザイマスルガ、其中特ニ委シク書イテ居リマスルノ

ガ此日々新聞デゴザイマス、此新聞ニ牛込區早稲田鶴巻町二百八十七番地大隈伯

ノ親戚ニテ伯邸ノ東北ニ垣ヲ接セル相良八氏ノ長女トキ子、又其弟ノ直行氏、トキ

子ハ二十七八日カラ直行氏ハ二十九日頃カラ擬似「ベスト」ニ罹ッテ、遂ニ昨四日ヲ以

テ兩氏トモ死亡致シタノデゴザイマス、其處デ研究ノ結果ドウシテモ是ハ擬似「ベスト」ニ

違ヒナイト云フコトニ相成シテ、殆ド當該官吏ガ出テ非常ニ目下善後策ノ講究中デア

ルト云フコトヲ書イテ居ルノデゴザイマス、誠ニ悲ムベキコトデアリマス、一方ニ斯ノ如キ事ガ

ゴザイマシテ、一方ニ又新聞ヲ見マスルト、昨日貴族院ニ於テ後藤男ノ質問中、大隈

伯ハ參内ノ時間ガ迫ッタト云ッテ遂ニ退席ヲサレタト云フノデゴザイマス、シテ見マスレバ伯

ハ御參内ニナッタモノデアルト云フコトヲ、私共ハ想像シナケレバナラヌノデゴザイマス、私共

ハ曾テ兒玉臺灣總督ガ内地ニ參リマシテモ、臺灣ガ「ベスト」流行地デアルト云フノデ

少クトモ一週間以上ハ參内ヲ遠慮シタト云フヤウナコト聞イデ居ルノデゴザイマス、而

モ接壤ノ地デ此二名マデ擬似「ベスト」デ死亡ヲ致シ、而シテ親戚デ日夜往來スル仲デ

アルニモ拘ラス、其日ニ伯ガ參内ヲシタト云フコトハ甚ダ不注意デアアルマイカ、私ハ誠ニ

失當デアアルマイカト考ヘマス、不注意ドコデナイ、實ニ私ハ危險至極ノコト、考ヘルノデ

ゴザイマス(拍手起ル)私ガ此處デ緊急ト云フコトヲ言フ所以ノモノハ、此事實ガ新聞

ノ報ズル所デアリマスカラ或ハ噓カモ知レヌ、併シ若シ事實デアッテ而モ其鄰接ノ地ニ「ベ

スト」ガアルニモ拘ラス、尙御氣ガ付キニナラヌデ、今日ニモ亦參内ヲセラレルト云フガ如

キコトガアッタナラバ、實ニ大問題デアルト私ハ存シマシテ、一ハ御注意ヲ喚起スル爲メ、

一ハ其失當ニ付テ如何ナル御答辯ガアルカ、又此事實ハ果シテ事實デアルカ、事實デ

ナイト致シマスレバ誠ニ悅バシイコトデアリマスガ、是等ノ點ニ付テ伯ノ明答ヲ請ハム爲ニ

質問ヲ致シマスル積リデゴザイマス、即チ是ガ私ノ質問ヲ致ス理由デゴザイマスカラ、伯ノ

御明答ヲ願ヒマス(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 唯今照會中デアリマスガ、其間議事ヲ進行スルヤ否ヤト云フ

コトニ付テ……

(「日程ノ變更ハ問題外」變更ノ必要ナシ「質問デアルト」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 出席セラレテ答辯セラレルマデ、時間ヲ空シクセズニ直ニ日程

第五ニ移リタイ思ヒマス

(「問題外」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 質問デアリマシタカラ

(「日程變更ノ希望デアッタ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 日程ハ變更シテハ居リマセヌ、ツレ故議長ハ此席ニ於テ小久

保君ニ打合セタコロガ、質問デアルト云フコトヲ明ニ答ヘラレタ、議事日程ノ變更ハ一

向提議ニナッテ居リマセヌ

(「何故ニ質問ヲ許シタカ」日程ノ通り進行ヲ願ヒマス」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 答ヘル方ノ出席マデ議事ヲ進行シタイト思ヒマスガ、御異議ガ

アレバ更ニ決ヲ採リマス

(「議長々々」進行々々」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 小久保喜七君

○小久保喜七君 私ハ質疑ガアルカラ質問ヲシタノデアルガ、之ニ依ッテ日程ノ變更ヲ

求メマス

○議長(島田三郎君) 日程變更ト云フ新シイ請求ト考ヘマス

(「賛成々々」反對々々」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 日程變更ノ動議ハ別ニ討論ヲ用非マセヌ、直ニ決ヲ採リマス、

日程變更ニ同意ノ御方ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(島田三郎君) 少數デアリマス——次ニ移リマス、日程第五、明治四十五年

大正元年度豫備金支出ノ件外十件ヲ全部議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマ

ス、箕浦勝人君

第五

明治四十五年	度豫備金支出ノ件
大正元年度	豫備金外ニ於テ豫
算超過及豫算外支出ノ件	
明治四十五年	度特別會計豫備金支
出ノ件	
明治四十五年	度特別會計豫備金外
ニ於テ豫算超過及豫算外支出	
ノ件	
大正二年度	豫備金支出ノ件
大正二年度	豫備金外ニ於テ豫
算超過及豫算外支出ノ件	
大正二年度	特別會計豫備金支
出ノ件	

(承諾ヲ求ムル件)(委員長)

大正二年特別會計豫備金外
ニ於テ豫算超過及豫算外支出
ノ件
自大正三年四月一日豫備金外支出
至大正四年五月十六日
自大正二年四月一日各特別會計豫
備金外支出ノ件
至大正四年五月十六日臨時軍事費特
別會計豫算超過支出ノ件

○箕浦勝人君登壇
(拍手起ル)
○箕浦勝人君 報告ヲ致シマス、委員會ノ審議ニ付セラレタル案件ハ、明治四十五
大正元年度ヨリ大正四年度五月十六日ニ至ル、四箇年度ニ亘テ行ハレタルコロ
豫備金及剩餘金ノ支出ニ對シ承諾ヲ求メラレタルモノデアリマス、委員會ハ審議討論
ヲ盡シタル末、全部ニ對シ承諾ヲスベキモノナリト決定致シマス、尤モ委員ノ一人ヨ
リハ豫備金以外ノ支出ハ憲法違反デアリ、憲法違反アル故ニ豫備金以外ノ支出
ニ對シテハ、總テ承諾ヲ與ヘカラストノ議ヲ出サレシマシタガ、贊成ガアリマセヌデ消滅致
シマス、又他ノ委員ヨリハ大正三年ヨリ大正四年度ノ剩餘金ノ支出ノ中ニ付テ、臨時軍
事費、臨時事件費、水道費ノ補助、築港費ノ補助、米價調節費、蠶絲會社助成
金、是等ノ支出ニ對シテ承諾ヲ與ヘカラストノ議ヲ提出致サレシマシタ、之ニハ贊成ガ
アリマシタケレドモ少數ニシテ否決ニナリマシタ、結局全部承諾スベキモノナリト議ニ決
定致シタルモノデアリマス、此案ノ討論ニ付テハ贊成反對ノ發言ノ通告ガ澤山アル趣デア
リマス故ニ、各種ノ發言ニ屬スル詳細ナル理由ハ、各、ソレ、ソレノ所論者ヨリ十分ニ演說
サレルコト、思ヒマスカラ、是ハ略シマシテ報告ハ是ダケニ止メテ置キマス(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 田川大吉郎君
(田川大吉郎君登壇)
(拍手起ル)
○田川大吉郎君 諸君、私ハ此場合本案ノ承諾不承諾ニ關スル意向ヲ決定スル前
提ノ要件トシテ、政府ニ向テ憲法ノ疑義ニ關スル政府ノ所見ヲ確メテ置キタイ、本來
斯ノ如キ剩餘金ノ支出ニ對シテハ、私等同志ハ多年之ヲ否認シ來タモノデアリマス、
大隈内閣ガ假令已ムヲ得ザル事情ニ遭遇シタルハ言ヒナガラ、過去ノ内閣ノ例ヲ追テ
剩餘金支出ノ途ニ出デタルコトハ、私等ハ深く遺憾トスル者デアリマス、之ヲ承諾スルヤ
否ハ次ノ議論ニ譲リマシテ、私等ハ斯ノ如キ支出ニ對シテ憲法第六十四條第二項ニ
剩餘金支出ノ場合ヲ含メルトスル從來ノ解釋ヲ斷ジテ不當ナリト信シ來タモノデアリマ
ス、言葉ヲ切ニシテ言ヘバ、是ハ違憲ト申スベキ範圍内ノ失態アルト云フ風ニ考ヘ來タ
モノデアリマス、故ニ此場合政府ニ向テ問フノデアル、政府ハ剩餘金ノ支出ニ關スル從
來ノ疑義ヲ解決スルニ足ルベキ法令ノ改正、其他適當ノ途ヲ近キ將來ニ於テ開カント
スルノ意思アリヤ否ヤ、若クハ剩餘金支出ノ必要無カラシムル爲ニ、剩餘金ノ支出ヲ
今後ニ杜絶スルノ目的ヲ以テ、豫備金増加ヲ計ラントスルガ如キ意思アリヤ否ヤ(憲
法改正デスカ)ト呼フ者アリ)私等ガ抱イテ居ル意見ハ、必ズシモ憲法改正デハアリマ
セヌ(ヒヤ)ト呼フ者アリ)若シ果見ヲ問ハレルナラバ憲法第七十條ノ解釋並ニ適
用ノ範圍ヲ擴張シタイト云フ希望ヲ有デ居リマス、或ハ會計法改正ノ手續ヲ執リタイ

ト云フ希望ヲ有デ居リマス、又豫備金ノ増加ト云フコトモ、國庫剩餘金ノ支出ナカ
ラシムベキノ方法デアリナカト云フ考ヲ懷イテ居リマス、併シ斯ノ如キコトニ關シテハ人
各、見ル所ヲ異ニスルデアラウ、故ニ何等一定ノ意見ヲ此場合ニ開陳シヤウトハ思ヒマ
セヌ、又開陳スベキ必要モ認メマセヌ、連年政界ノ爭トナリ、疑トナリ來テ居リマス
ル此憲法上ノ疑義ニ對シテ、將來又斯ノ如キ紛爭ナカラシムベキ爲ニ、法令ノ改正、
其他適當ノ手段ヲ今後ニ誓テ講ゼントスル意志アリヤ否ヤト云フコトヲ問フデアリマ
ス(簡單)ト呼フ者アリ)モウシテ終リデアリマス、若クハソレニ對シテ豫備金増加ノ手
段ヲ以テ之ヲ杜絶セントスル目的アリヤ否ヤヲ問フデアアル、簡單ニ是ダケデアリマス
(大藏大臣若槻禮次郎君登壇)
○大藏大臣(若槻禮次郎君) 剩餘金ノ支出ナルモノハ、成ルベク之ヲ爲サヌヤウニシ
タイノデアリマスカラ、豫備金ノ増加、其他ノ方法ニ依リマシテ、剩餘金ヲ支出セズシテ
國務ノ遂行ノ出來ルヤウニ爲スコトニ、十分努力致ス積リデアリマス(拍手起ル)
○議長(島田三郎君) 大場茂馬君
(此時發言スル者多シ)
○議長(島田三郎君) 質疑ノ範圍ヲ能ク御保チニナルコトヲ希望シテ置キマス
(法學博士大場茂馬君登壇)
(拍手起ル)(君モ亦變節カ)ト呼フ者アリ)
○議長(島田三郎君) 佐々木君ニ御注意致シマスガ、發言前ニ斯ノ如キ人格ヲ傷ケ
ル如キ言語ハ不穩當ト考ヘマス(ヒヤ)ト呼フ者アリ)平素トモ不穩當デアリマス
ガ、特ニ發言前ニハ不穩當デアリマス
(佐々木安五郎君) 議論ト人格ハ別ダ(ト呼フ)
○議長(島田三郎君) 場合ニ依リマシテハ規則ヲ厲行致シマスカラ 御警告ヲ致シテ
置キマス(拍手起ル)
○法學博士大場茂馬君 私ハ政府ニ對シテ質疑ヲ致スノデアリマス、質疑ヲ致シマスル
前ニ當リマシテ、私共ノ意見ト政府ノ意見ト、如何ナル點ニ於テ相違スルカト云フコトヲ
述ベネバナリマセヌカラシテ、其前提トシテ多少ノ意見ノアルコトハ前以テ御承知ヲ願ハネ
バナラスノデアリマス、實ハ私ハ過日來逸早く通告ヲシテ置イタルデアリマス、サウシテ昨日
祕書ニ參リマシテ議事日程ノ裁可ト云フ時ニ、丁度際會シタルデアリマス、其時ニ裁可ガ
アッタ、裁可デナイ決裁ガアッタ、其瞬間ニ私ハ通告シテ置イタルデアリマス、然ルニ如
何ナル都合ガ私ハ十何番目ニナッテ居ル、ソコデ抗議ヲ申シマシテ質疑ナラ宜シイト云フ
ノデアリマス、ソコデ私ハ豫テ調ベタルコトモアリマスルケレドモ、質疑ノ範圍内ダケデ私自
カラ行動スルヨリ外致方ナイコトニナリマシタ(ヒヤ)ト呼フ者アリ)
(ソコデ第一ニ政府當局ニ御尋ネスルノデアアル、其御尋ネスル主文ト云フモノハドウ云フ
コトカト云ヘバ、所謂責任支出ト云フモノハ、立憲的財政ノ大本ト反對シテ居ルノデハ
ナイカト云フコトヲ問フデアリマス、凡ソ立憲的財政ト云フモノハドウ云フカ、先ツ國庫ノ
歳出ヲ支出スル前ニ於テ、帝國議會ノ協賛ヲ經ルト云フコトデアリマス、若シ經ル能ハ
ズンバ如何スルカト云ヘバ、樞密院顧問ノ諮詢ヲ經テ緊急處分ヲ爲スト云フノガ、立憲
的財政ノ大本ダラウト思フ(議場ハ學校ニ非ラズ)緩クリヤリ給ヘ(簡單明瞭)ト呼
フ者アリ)無論申スマデモナク、簡單明瞭ニスル積リデアリマス、先ツ立憲的財政ノ遺方ト
申シマスレバ、申スマデモナク、先ツ第一ニ豫算案ヲ作リマシテ、陛下ノ決裁ヲ經テサウ
シテ帝國議會ニ出シテ、協賛ヲ經テ之ヲ施行スルト云フコトデアアル、是ガ立憲的財政ノ
方法デアリマス、已ムヲ得ザル場合ニ於テ憲法第七十條ニ依リマシテ、樞密院顧問ノ

諸詢ヲ經ルニ云フコトニナツテ居リマス(「早ク質問ヲヤリ給へ」ト呼フ者アリ)サウ致シマシテ質問ハ無論申スノアル、先程申シマシタ通りデアル、モウ少し聴イテ見ナケレバ分リマセヌ、然ルニ其手續ヲ經ズシテ先ツ以テ使ヲツレカラ後ニ議會ノ協賛ヲ經ルニ云フコトハ變則デアリマス、ツマリ帝國憲法ノ上ニ見マシテモ、大體ハ斯ウ云フ仕組ニナツテ居ルノデアル、然ルニ豫算案ヲ作りサウシテ直ニ自方ガ施行シテ計算シタ、既ニ支拂支出ノ後ニ帝國議會ノ承諾ヲ經ルニ云フコトハ、憲法ノ大精神ニ背イテ居ルノデアリマシテ、立憲的財政ノ大本ト矛盾スルモノデアリマシタ思ヒマス、此點ニ對スル政府ノ所見如何、ツレカラ第二ハ所謂責任支出ト云フモノハ、樞密院顧問及帝國議會ノ權能ヲ無視スルモノデアリカト云フ點デアリマス、先程モ申シマス通り、豫算ト云フモノハ勅裁ヲ經テ帝國議會ニ出シテ後ニ施行スルノガ立憲的財政ノ根本デアリマス、已ムヲ得ザル場合即チ公共ノ安全ヲ保持シ緊急ノ需用アリテ、内外ノ情形ニ因リ帝國議會ヲ召集スル能ハザル場合ニ於テ、變則ノ手段ト致シマシテ憲法第七十條ニ依リマシテ樞密院顧問ノ諮詢ヲ經ル、此樞密院顧問ノ諮詢ヲ經ルニ云フモノハ、樞密院顧問ト云フモノハ決シテ政治上無責任ノ地位ニアルモノデアリマセヌ、世或ハ樞密院顧問ト云フモノハ政治上無責任ノ地位ニアルモノト解シテ居ル者ガアリマス、是ハ根本的ノ間違デアリマス、憲法第五十六條ヲ御覽ナサイ、如何書イテアルカト申シマス、樞密院顧問ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ナル國務ヲ審議スト書イテアリマス、樞密院官制ニ依ツテ樞密院顧問ト云フモノハ、ツレノ諮詢ニ應ヘルト云フコトガ規定シテアルノデアリマス、サウ致シマシテ樞密院官制ニハ第六條ノ第三號ニ、憲法第七十條ノ場合ニ於テハ、必ズ樞密院顧問ノ諮詢ヲ經ルニ云フコトガ書イテアリマス

○議長(島田三郎君) 成ルベク質問ノ要點ヲ……

○法學博士大場茂馬君 質問デアリマス、質問ニ付テノ意見デアリマス(「反對カ賛成カ明白ニ言フベシ」ト呼フ者アリ)無論違憲論デアアル——無論違憲論デアリマス(「要點ヲ述ベ給へ」質問ヲ言フベシ)「ヤリ給へ」敬意ヲ表シテ謹聽スベシ其他發言スル者多シ(既ニ斯ノ如ク政治上ノ責任ガアル、其責任ト云フコトハ如何デアルカト申シマス、樞密院顧問ト云フモノハ臨時已ムヲ得ザル場合ニ於テハ、帝國議會ニ代ツテ其權能ヲ行フモノデアアルツマリ、天皇ノ諮詢ニ應ヘテ帝國議會ニ代ツテ豫算ノ協賛スルモノデアアル、其モノ、諮詢ヲ經ズシテ豫算ヲ實施スルニ云フコトハ、樞密院顧問ノ權能ヲ無視シ、併セテ帝國議會ノ權能ヲ無視スルモノデアリカ、此點ニ對スル政府ノ所見如何ト云フコトヲ尋ネルノデアリマス(拍手起ル)第二ハ(「要點ヲ言ヒ給へ」ト呼フ者アリ)要點ハ言ヒマシタ(「緩クヤリ給へ」ト呼フ者アリ)第二ハ政治道德上此責任支出ト云フモノハ、甚ダ不都合デアアルノデアリカト云フ點デアアルノデアリマス、此度ノ總テヤタ事柄ハ、何レモ若シ政府ニ於テアル意思ガアツタラバ、何レモ憲法第七十條ニ據ツテ施行シ得ベキモノデアアル、此度ノ事柄ヨリモモット急迫デナイモノニ於テモ、從來政府ニ於テハ憲法第七十條ニ據ツテヤタモノガ澤山アルノデアリマス、然ルニ此度ハサウ云フコトニ致サナイ、サウシテ此點ニ對シマシテハ從來ヨリ餘程違フ關係ガアル、從來ハ豫算ト云フモノハハドノ位カト申シマス、今度ノ如キ其數額ニ於テモ其項目ニ於テモ多モノハナインノデアアル、此度帝國議會ニ承諾ヲ求メラレマシタコロノモノハ何程カト申シマス、ト云フコト、

總計ガ一億四千万以上ニ上ツテ居ルノデアリマス、其内現内閣ガ過去數箇月間ニ於テ、責任支出ヲ致シタモノハ八千万圓以上ニ上ツテ居ルノデアリマス、八千万圓ト申シマスレバ明治二十三年帝國議會開會當時ヨリ、五十六年ニ至ル當時ノ全歲入全歲出ト殆ド匹敵スベキ額デアアルノデアリマス(拍手起ル)此大ナル額ニ對スル豫算ト云フコトニ付テ、帝國議會ニモ諮ラズ、又ハ帝國議會ニ代ルトコロノ樞密院顧問ノ諮詢ヲ經ズシテ、獨斷專行シタコトハ政治上ノ道德ノ上カラ見て適當ノ所爲ト云フヲ得ルヤ否ヤ(拍手起ル)「質問デアリマス」議長「御許ニナリマス、此席ニ於テ憲法ノ講義ヲ承ル必要アリマス」議長「議長々々」議長規則ヲ履行スベシ其他發言スル者多シ

○議長(島田三郎君) 大場君質問ノ要點ヲ簡明ニ

(「質問」簡明デアリマス)議長質問以外ノ發言ヲ許サレルカ「長島君ノ受賣ナリ」急行テ願ヒマス「緩クヤリ給へ」發言權ヲ尊重スベシ其他發言者多シ

○法學博士大場茂馬君 政府ノ御執リニナツタコロノ所謂責任支出ト云フモノハ、憲法ニ背クカ背カナイカト云フ點ハ假リニ議論ガアツテ、政府ハ背カナイト云フ御議論ニナツテモ、少クモ會計法ニ矛盾スル點ガアルカナイカト云フコトヲ政府ノ意見ヲ承リタイ、私共ノ解スルニ依リマス、政府ノ此度爲シタル處置ハ會計法ニ矛盾スルモノナリト思フ者デアリマス(「ヒヤノ」拍手起ル)其理由ヲ私ハ申シマス、會計法第二十二條ニ依レバ申スマデモナク、ドウ書イテアリマス、各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其翌年度ノ歲入トスト云フコトニナツテ居ル、未ダ本年度ノ歲入デナク翌年度ノ歲入ト云フコトニナツテ居ル、サウ致シマシテ其十一條ニ「每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ、其年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スベシ」ト云フコトニナツテ居ル、然ルニ政府ノ今度使ツタハ其年度ノ歲入デナク、翌年度ノ歲入デハナイ、翌年度ノ歲入ヲ使ツタト云フコトハ憲法……(ツレハ質問デアリマス)其他發言者多シ會計法ニ矛盾スルノデアリカト云フコトヲ御尋ネルスルノデアリマス(「マツイ」ト呼フ者アリ)ツレカラモウ一點、會計法ノ第三條ニ依リマス「各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スベキ經費ニ充ツルコトヲ得ズ」此モノハ直接責任支出ハ矛盾シテ居ナイカモ知レナイケレドモ、其精神ニ於テ矛盾スルモノデアルト思フガ、政府ノ所見如何ト云フコトヲ御尋ネルノデアアル(「簡單々々」ヤリ給へ)ト呼フ者アリ要スルニ簡單ノ聲モアリマス、私ノ問ハ是デ止メテ置キマス

○議長(島田三郎君) 若槻大臣

(大藏大臣若槻禮次郎君登壇)

○大藏大臣若槻禮次郎君 第一點ノ御質問デアリマス、トコロノ剩餘金ノ支出ナルモノハ、變體デアルト思フガ、其點ハドウデアアルカト云フ御問ノヤウデアリマス、政府モ亦剩餘金ノ支出ナルモノハ萬已ムヲ得ズシテ致スモノデアリマス、全ク例外ニ屬スルモノ、是ハ御質問者ト御同論デアアルノデアリマス、第二點ノ剩餘金ノ支出ヲ致スコトハ憲法並ニ樞密院顧問官ヲ無視シタコトデアリカト云フ御疑ニ對シテハ、左様デアリナイノデアリマス、剩餘金ノ支出ニ付テハ第九議會以來ノ公ナル國法上ノ見解ガアリマス、成ベク之ニ據ラヌヤウニシタイノデアリマスガ、萬已ムヲ得ナイ時ニハ之ニ據ツテ居ルコトハ、從來

ノ政府幾ラモ例アルコトアリマシテ、其慣例ヲ追ウタニ過ギマセヌカラ、憲法及樞密顧問官ヲ無視シテ事柄ヲナイト考ヘテ居リマス(前提ト結論ト違フ)ト呼フ者アリ)其次ノ御質問ハ會計法ニ違反ヲシハセヌカ、剩餘金ハ翌年度ノ歳入ニ入ル、ト云フコトニナッテ居ルガ、剩餘金ヲ使フコトハ其規定ニ反スルノデハナイカ、其他二三箇條御引用ニナリマシタガ、私ハ能ク聴取レマセナカッタケレドモ、剩餘金ハ翌年度ノ歳入ニ入リマス、ツレ故ニ剩餘金が即チ其年度ノ歳入、入ッテ其處ニアルノデアリマス、之ヲ從前ノ國法上ニ於ケル公ノ見解ニ從ッテ支出スル、即チ問題ハ支出スル事柄が緊急已ムヲ得ナイモノデアリヤ否ヤト云フコトデアラウト思ヒマス、出スコトニ付テハ是マデ既ニ公ニ成立ッテ見解ガアリマス、故ニ之ニ基イテ支出ヲ致シタノデアリマス、最近ニ至ッテノ國庫剩餘金ノ支出が大變多額ニナッテ居ル、是ハ特ニ政治上ノ德義ニ反スルと思ハナイカト云フ御質問、最近ニ至ッテ剩餘金ノ支出ノ大變多額ニナッテ居ルト云フノハ、同時ニ又最近ニ至ッテ日本ハ交戦状態ニ入ッテ居ルト云フコトノ、事實ナルコトヲ申上ゲナケレバナラヌノデアリマス、ノミナラズ豫算ガ兩年度ニ亘ッテ不成立ニナッテ、長イ間豫算計畫ノ成立シテ居ナイト云フ事實ノアルコト云フコトモ、亦申上ゲンケレバナリマセヌ、是等ノ事情ノ下ニ於テ、今日ノ國庫剩餘金ノ高ガ、唯今ノ金額ニマデ上リマシタコトハ、政府デハ已ムヲ得ナイ事柄ト認メテ居リマスノデアリマス

○議長(島田三郎君) 下岡政府委員

(政府委員下岡忠治君登壇)

○政府委員(下岡忠治君) 重大問題ノ半バデゴザイマスガ、小久保喜七君ヨリ御尋ノコトハ大事ナコトデゴザイマスカラ(「高聲ニ」ト呼フ者アリ)事實ヲ申上ゲマス、牛込ノ早稲田鶴巻町二百八十六番地相良大八郎君ト云フ者ノ長男直行ガ、「ベスト」ニ罹ッテ死ニマシタコトハ事實デゴザイマス、昨日ツレガ事實トシテ現レタノデアリマスガ、是ハ先月ニ病氣デ既ニ大學病院ニ入ッテ居ッテ、病氣ノ様子ガ分ラズニ居タノデ、昨日死デカラ後ニ段々疑ガ起ッテ、ツレヲ調ベタ結果、午後ノ十時ニ至ッテ是ガ「ベスト」デアルト云フコトガ決定致シタノデアリマス、大隈伯爵ト此直行ト云フ人トノ間ハ、縁族ノ關係ガアルト云フコトハ聞イテ居リマスガ、併シ伯爵邸ト此患者ノ家トハ餘程離レテ居リマス、平素殆ド交通ガナイト云フ狀況デアアルノデアリマス、ツレカラ伯爵ガ昨日宮中ヘ行カレマシタコトモ是モ事實デゴザイマス、全ク長レ多イコトデゴザイマスガ、其「ベスト」ト云フヤウナコトハ思ヒモ寄ラナカッテ、昨日宮中ヘ參内ニナッタノデゴザイマスガ、餘程用心ヲシ慎ムベキ事デゴザイマスカラ、本日カラハ其點ハ御遠慮セララル、コトニ極ッテ居リマス、ツレダケノ事實デゴザイマス、尙御質問ガアレバ申上ゲマス

○議長(島田三郎君) 是ヨリ通告順ニ依ッテ發言ヲ……

○小久保喜七君 此問題ニ付テ私カラ……

○議長(島田三郎君) 小久保喜七君

○小久保喜七君 唯今此直行ノコトニ付テハ御答辯ガアリマシタガ、長女ノトキ子ノコトニ付テハ御答辯ガ無カッタカラ(「通告順ニ依ルベシ」ト呼フ者アリ)向フカラ答辯ガアッタカラ私カラ更ニ質問スルノデ、重大ナ問題デアルカラ御黙リナサイ

○議長(島田三郎君) 下岡政府委員

(政府委員下岡忠治君登壇)

○政府委員(下岡忠治君) 御答致シマス、モウ一人ノ兄弟ノ人ノ死ニマシタノハ、唯今マデノ調査ニ依リマスルト全ク他ノ病氣デアルト云フコトニナッテ居リマス、併シ尙念ノ爲ニ十分ノ調査ヲスルト云フコトニナッテ居リマス、現在マデノ檢鏡ノ結果ニ依ル陰性陰ノ性ト書キマス、陰性ノモノデアラカラ「ベスト」デナイト云フコトニナッテ居リマスケレドモ、多少疑モアルカラ尙念ヲ入レテ更ニ研究ヲスルト云フコトニナッテ居リマス

○川崎安之助君 議長——議長

○小久保喜七君 議長

○議長(島田三郎君) マデアリマス

○小久保喜七君 今一言——サウ致シマス、過ッテ參内ヲシタト、斯ウ云フコトデアリマス

○議長(島田三郎君) 長島隆二君

○小久保喜七君 答辯ガナイナラバ宜シイ

○議長(島田三郎君) 長島隆二君

(川崎安之助君) 私ハ唯今ノ事ニ付テ議長ニ質問ガアリマス「ト呼フ」

○議長(島田三郎君) 長島隆二君ニ許シマシタ

(長島隆二君登壇)

(拍手起ル)

○長島隆二君 本員ハ唯今問題ニナッテ居リマス承諾案ニ付キマシテ、委員長ノ報告ヲ否ト致ス意見ヲ持ッテ居リマス、即チ全體デハゴザイマセヌガ、其中ノ責任支出ニ付キマシテハ承諾ヲ與フベカラズト云フ考ヲ有ッテ居リマス、簡單ニ所見ヲ申述ベタイト考ヘマス、憲法上ノ問題ニ付キマシテハ過日ノ質問ニ於テ大要所見ヲ申述ベマシタ、極メテ今日ハ簡單ニ申シマス、其前ニ先刻我々尊敬スル田川代議士ヨリ政府ニ對シテ質疑ガゴザイマシタ、其實疑ノ中ニ田川代議士モ「大場代議士」ト呼フ者アリ)イヤ田川君デゴザイマス、田川代議士モ責任支出ハ憲法違反デアルト云フ御意見ヲ有ッテ居ルト云フコトデゴザイマシタ、此點ニ於キマシテハ私ト同意見デアルコトヲ喜ヒマス、又田川君ハ憲法違反デアラカラ將來之ヲ矯正スルコトニ付テ、政府ハ如何ナル考ヲ有ッテ居ルカト云フコトデゴザイマシタガ、此點ニ至リマシテ私ハ何故ニ田川君ガ、政府ニ御尋ニナッテ、政府ノ意見ヲ問フコトヲ手段ニ出デタカラ甚ダ怪ムノデゴザイマス、議會ハ此問題ニ付テハ當然或權能ヲ有ッテ居ルノデアアル、又此事ガ憲法違反デアアル、將來之ヲ矯正シヤウト致シタナラバ、議會ハ執ルベキ相當ノ手段ハイロ／＼アルノデアリマス、即チ會計法ノ中ニ明カニ此事ヲ規定スルノモ一ツノ方法デアアル、又其外イロ／＼ノ手段モゴザイマセウガ、先ヅ第一ニ今問題ニナッテ居ル此案ニ對シテ、承諾ヲ與ヘズト云フコトガ、最モ有力ナル矯正方法デアルト私ハ信ズルノデアリマス(「ヒヤ／＼」ト呼ビ拍手起ル)何故ニ田川君ガ政府ノ意見ヲ問フコトヲ手段ニ出デテ、議會自ラノ權能ニ依テ將來ノ矯正ノ途ヲ講ズルト云フコトヲセナカッタカ、甚ダ私ハ遺憾ニ思フノデアリマス(拍手起ル)先日來大藏大臣ハ此問題ニ付キマシテイロ／＼ナ御説明ヲ與ヘテ居ラレマスガ、大藏大臣ノ御説明中ニ、此事ハ憲法ノ條項ハナイ、併ナガラ之ヲ禁ジテ居ル條項モ無イカラ、政府ハ之ヲ爲シタト云

フコトデゴザイマスルガ、私ハ明カニ憲法ニ於テハ之ヲ禁シテ居ルト云フ解釋ヲ持ッテ居ル
ノデゴザイマス(ヒヤノ)ト呼ビ拍手起ル。簡單ニ申シマスルガ、豫備金ノ規定ハ——
憲法六十九條ノ規定ハ何故ニ之ヲ設ケタノデゴザイマスルカ、豫算外ノ支出ニ付テハ豫
備金ヲ設ケ、其豫備金ノ範圍ニ於テ之ヲ爲スベシト云フコトヲ、憲法六十九條ノ規定
シテ居リマスルコトハ、豫備金以外ニ於ケル支出ハ許サナイ、豫算外ノ支出ハ豫備金ノ
範圍内ナケレバ許サスト云フ精神ト解釋シナケレバナラヌデア、サウ解釋シナケレバ
豫備金ノ規定ガ全ク不必要ニナルデア、豫備金ノ規定ハアルガ、ソレ以外ニ於テ政
府ガ自由自在ニ責任支出ヲ爲シ得ルト云フナラバ、豫備金支出ノ規定ハ全ク無意味
ノモノニナルト云フコトハ明カナコトデゴザイマス、又簡單ニ申シマスルガ、憲法第七十
條ニ於テ豫算外ノ支出ノコトニ付テ、イロノナ嚴重ナ條件ヲ付ケテ規定致シテ居
リマスルコトモ、豫算外支出ハ許スベカラザルデア、豫算ニ付テハ憲法第六十四
條ノ原則、即チ議會ノ協賛ヲ經タル豫算外ノ支出ハ許サナイ、此事ヲ明カニスルガ爲
ニ——併ナガラ非常緊急ノ場合、特ニ第七十條ノ規定ヲ設ケタノデアリマシテ、第七十
條ノ規定ハ即チ第七十條及豫備金ノ規定ノ此外ニ於テハ豫算外ノ支出ヲ禁ズルト云
フ精神デアルト、是ハ解釋シナケレバナラヌト思フデアリマス、多クノ言葉ヲ費ス必要ハ
アリマセヌ、殊ニ此憲法違反ト云フコトニ付キマシテハ、先日モ申シマシタ通り、若槻大藏
大臣モ其解釋デアッタ、武富遞信大臣モ其解釋デアッタ、又前ノ議會ニ於キマシテ大分
久シイ前ノコトデアリマスガ、尾崎司法大臣モ其意見ヲ以テ此壇上ニ於テ大ニ戰ハレタ
コトモアルデアリマス、河野農商務大臣モ同ジク憲法違反ナリト此議會ニ於テ陳述サ
レタコトモアルデアリマシテ、最早多ク論ズル必要ハナイト思ヒマス、先日若槻大藏大
臣ハ此席ニ於テ責任支出ニ付テハ制限ハナイ、併ナガラ政府ガ責任ヲ取ルコトガ制限デ
アルト云フ御辯明デアリマシタ、政府ガ責任ヲ取ル、是ガ何ノ制限デアリマスカ、憲法
ハ法規ノ上ニ於テ各機關ノ權限ニ制限ヲ爲シ、又法律命令等ノ關係ニ付テ制限ヲ
加ヘテ居ル、即チ其法規ノ上ニ明カニ制限ヲ設ケルノガ憲法ノ主旨デアリマシテ、當
局ガ責任ヲ取ルナラバ何事デモ爲シ得ルト云フコトハ、是ハ制限ニアラズシテ全ク無制限
ナリト解釋シナケレバナラヌデア、(拍手起ル)憲法ノ大體ノ精神、又憲法政治ノ妙
用ハ各機關ノ關係ニ於テ相定マル所ノ制限ヲ守ルコトニアル、又法律命令ノ間ニ於テ
憲法ノ定マツタ制限ノ範圍ヲ嚴重ニ守ルト云フコトニアルデア、然ルニ政府當局ハ、
憲法ニ於テ制限ハナイ、又此事柄ニ對シテ法律上ノ制限ハナイ、唯責任ガ制限ダト云フ
ヤウナ觀念ヲ持チマスコトハ、私ハ憲法ニ對シテ根本的觀念ニ於テ大ナル誤アルコトヲ信
ズルデアリマス、併ナガラ私ハ今日專ラ財政上ノ見地カラ責任支出ノ許スベカラズト云
フコトヲ述ベテ見タイト思フデアリマス、豫算ニ於キマシテ款項ノ流用ヲ許サスト云フコ
トハ、是ハ重要ナル原則デア、即チ目ノ流用ハ許シマスガ、甲ノ款ノ費用
ヲ以テ乙ノ款ノ費用ニ充ツルコトハ出來ナイ、款項流用ヲ許サスト云フコトガ、即チ議會
ノ豫算ニ對スル權限ノ、是ガ其勸キヲ完クスルメニ極メテ必要ナノデア、デアリマ
ス、之ヲ更ニ實際的ニ申シマスル、議會ガ豫算ニ對シテ協賛ヲ與ヘマスルノハ、是ハ金
額ニ付テ協賛ヲ與ヘルノデナイ、又財源ガアルカラ言フテニ協賛ヲ與ヘルノデナイ、此
事業ガ宜シ、此仕事ノ目的如何、ソコマデ議會ガ審議致シテ、其議會ノ審議シタモノ

ニ付キマシテ適當ナリト認メタ問題ニ付テ、費用ヲ使フコトヲ許スノデアリマス、甲
ノ費用ヲ以テ乙ノ經費ニ流用スルコトヲ許サスト云フコトニアルデア、然ルニ責任
支出ニ至ッテハ款項流用ト云フ制限ハ素ヨリナイデア、又議會ガ認メザル目的、或
ハ議會ガ反對ノ意志ヲ有シテ居ル目的ニ向テ之ヲ支出スルコトニ付テモ、何等ノ制
限ヲ加ヘルコトガ出來ナイト云フコトニナリマシテハ、豫算ノ上ニ於テ款項ノ流用ヲ許サ
スト云フ、此大精神ガ責任支出ニ於テ全ク破壞シ終ルモノト見ナケレバナラヌデア
マス、款項ノ流用、是ガ極メテ大切ナノデアリマスガ、責任支出ニ於テハ議會ガ許サザル
目的デアッテモ、議會ガ反對シテ居ル事柄デアッテモ、政府ガ支出ヲ爲シ得ルト云フコトニ
ナルデアリマス、若シ責任支出ヲ議會ガ公然認メマスルナラバ、是ハ豫算ニ對スル
議會ノ權能ヲ、全然議會自ラ拋棄スルモノト言ハナケレバナラヌデアリマス、又議會ガ
豫算ニ協賛ヲ與ヘルコトハ大體ノ金額、即チ此豫算ガ五億六千萬デア、或ハ六億デ
アル、而シテ此金額ガ財政ノ經濟ノ調和ヲ保ツ上ニ於テ宜シ、又此金額ガ將來ノ財
政上ノ累ヲ貽サスト云フヤウナ點ニ付テモ議會ガ審議致スノデア、ソレデアリマス、豫
算全體ノ金額ト云フコトガ極メテ大切ナノデアリマシテ、先程申述ベマシタ通り、議會
ノ豫算議定權ニ於キマシテハ、一方ニハ其事柄ノ目的ヲ調べ、又一方ニ於テハ總テ
フ合セタ總體ノ金額ト云フモノヲ同ジク審議致スノデアリマス、而シテ此總體ノ金額
ノ關係ガ、或ハ大藏證券ノ發行ノコトニ關係致シ、或ハ將來ノ公債募集ノコトニ關
係致シ、或ハ將來ノ増稅、減稅等ノ事柄ニ關係致スノデアッテ、全體ノ金額如何ト云
フコトハ、財政計畫ヲ立ツル上ニ於テ極メテ必要ナル事柄デア、デアリマス、然ルニ
責任支出ニナリマスル、議會ガ適當ナリト認メタ金額以外ニ於テ、無制限ニ政府ガ
支出シ得ルト云フコトニアルデアリマス、一度責任支出ヲ許シマシタ曉ニハ、而モ
此事ガ問題トナッタ以上ニ於テ、是ガ當然爲シ得ルトシタナラバ、議會ガ定メテ適當ナリ
ト信ジタル豫算ノ大體ノ計畫、即チ財政計畫ト云フモノハ、政府ノ都合如何ニ依ッテ
左右サルコトニナルデアリマス、此點ヨリ見マシテモ責任支出ハ豫算ノ破壞ナリト
斷言セザルヲ得ヌデアリマス(拍手起ル)此點ニ付キマシテ政府ハ一向注意ヲ拂ハヌヤ
ウデアリマス、誠ニ豫算ニ對シテ、豫算外ニ一億以上ノ金ヲ支出スルト云フガ如キコト
ハ、殆ド豫算ノ計畫ノ上カラ見テモ、財政計畫ノ上カラ見マシテ、非常ナル影響ヲ持ッ
モノデアッテ、若シ將來スノ如キコトガ屢、行ハル、ナラバ、議會ガ豫算ヲ審議スルト云フ
コトハ、殆ド無意味ニナリ終ルデアリマス、又大體ノ財政方針ノ上カラ見マシテモ、此
問題ガ極メテ議會トノ關係重大デア、即チ思フデアリマス、近來積極的財政政策、或
ハ消極的財政政策ト云フコトガ頻リ行ハレ、現ニ政府ニ於テハ財政ノ緊縮或ハ消極
的政策ト云フコトヲ頻リ言ハレタデアリマス、今此處ニハ私ハ積極的の財政政策ト
消極的の財政政策ノ可否ヲ論ズル場合デア、即チ思ヒマス、是ハ論ジマセヌガ、少ク
モ緊縮ヲ主トスル財政政策ノ上ニ於テ、又消極ヲ主トスル財政政策ノ下ニ於キマシテ、
財政ノ膨脹ヲ避ケル、議會ガ出來ルガ財源ヲ緊縮セシムルト云フ手段ヲ執ルト云フコ
トハ極メテ大切ナノデアリマス、此責任支出ヲ自由ニ許スト云フコトニナリマスレバ、財
政緊縮ト云フコトハ根柢ヨリ破壊セラルコトハ、既ニ昨年度ノ支出ノ狀況ヲ見テモ明
カナデアリマス(拍手起ル)現内閣ガ執ッテ居ル緊縮政策ト明カニ此道リ方ハ相違致

レテ居ルノアル、殊ニ消極政策ノコトニ付キマシテ、是ハイロ／＼ナ關係ガアリマスルカ
ラ、一言レナケレバナリマセウガ、消極的財政政策ト申シマスル其半面ニハ、私ハ減稅
政策ガ當然伴フベキモノデアリト思フ(拍手起ル)積極的政策ノ裏ニ減稅政策ハ伴ハヌ
ト云フコトハ是ハ當然デアリマスガ、消極的ノ財政政策即チ政府自ラ節約スル、國民ヲ
レテ自ラ節約セシムル、而シテ獨立自營ノ財政經濟ノ關係ヲ作ラウト云フ考カラ申シマ
スト、ドウレモ其裏ニ減稅政策ヲ伴ハナケレバナラヌデアアル、然ルニ此責任支出ト云
フコトガ此事柄ニ非常ナ關係ヲ有テ來ルノデアアル、理論デ私ハ申シマセウガ、實例ヲ以テ
申上ケマスガ、剩餘金ガ餘計アル、剩餘金ガ餘計殘テ居リマス、ツレガ直チニ減稅政
策ノ上ニ關係ヲ持テ來ルノデアアル、譬ヘテ申シマスレバ此度國債整理基金ヲ特別會計
ニ送スル、金額ヲ減ズル、二千萬圓ホド差當リ減ズル、之ヲ鐵道ノ方ニ持ッテ行クト
云フコトニ、此間本議場ニ於テハ定マツタデアリマスガ、鐵道ノ方ニ要スル金額ハ一年
ニ二千萬圓デアアル、若シ茲ニ六千萬圓ノ剩餘金ガ殘テ居リマシタラバ、其六千萬圓ノ
金ヲ鐵道資金ニ投入シテ、三年間ハ二千萬圓ノ、鐵道ノ經費ヲ支辨スルコトガ出
來ルノデアリマス、若シ此狀態デアリマシタラバ、何ヲ苦シテ國債整理基金ヲ割イテ鐵
道資金ニ投入致シマセウカ、寧ロ此場合ニ於テハ今迄通り國債整理基金投入ノ金額
ヲ今迄通りニシテ置イテ、公債償還基金ヲ今迄通りニ致スト云フコトヲスルガ或ハ公債
償還基金ヲ減シテ是ハ新稅ヲ以テ元々ツテ居リマシタラバ、公債政策ヲ捨ルノ場合
ニ於テ之ヲ減稅ノ財源ニ充テルト云フコトガ出來ルノデアリマス、然ルニ剩餘金ヲ勝手ニ
使ッテシマツテ、一億七千萬圓ホド剩餘金ガ二千萬圓ホドニ減ジテ、而モ其二千
萬圓ノ剩餘金ノ多クハ費途ガ定マツタ云フ狀況デアリマス、此剩餘金ヲ鐵道資金ニ
向ケルコトハ出來ヌ、其結果終ニ租稅ヲ以テ徵收シタ金ヲ以テ鐵道資金ニ充テナケレバ
ナラヌ結果ガ茲ニ起ッテ來ルノデアリス、即チ責任支出ノ如キ殆ド無制限ナル、殆ド亂暴
ナルヤリ方ヲ致シマシタ結果ハ、終ニ剩餘金ハ或場合ニ於テ之ヲ濫費シ之ヲ徒消致シ
マシテ、其結果公債ノ償還金額ハ減リ、或ハ減稅ニ充テタル場合ニ於テ、減稅ニ之ヲ
充ツルコト能ハスト云フ困難ガ起ッテ來ルノデアリマス、此ノ如キ狀態デゴザイマシテ、責
任支出ノコトハ唯一ツ／＼ニ捕ヘテ見マスルト夫程デナイヤウデアリマスガ、此責任支出
ヲ極メテ亂暴ニ行フ、現政府ノヤリマシタ處置ハ極メテ亂暴ナ不謹慎ナヤリ方デアルト
思フノデアリマス、此ノ如キコトヲヤリマシタ結果、直チニ減稅政策ノ上ニ大ナル影響ヲ
及ボスト云フコトヲ、吾々ハ十分ニ之ヲ念頭ニ置カナケレバナラヌ重要ナル點デアルト思フ
デアリマス(拍手起ル)此間田川君ヨリ致シマシタ此度ノ豫算ハ餘程善イ豫算デアアル、即
チ豫算ノ總金額ガ以前ニ比シテ減ツタ、財政緊縮ノコトガ現ハレタカラ極メテ此豫算ニ
協賛ヲ與ヘルコトニ付テ、自分ハ満足スルノデアルト云フ御説明ガアリマシタ、一應御尤
モデアアル、又特ニ田川君ガ此點ニ注意サレタコトヲ感謝致シマスガ、更ニ翻ッテ考ヘテ見
マスルト、今日ノ財政ハ決シテ満足スベキ狀態デナイ、極メテ憂慮スベキ狀態ニアルノデ
アリマス、何故ニ豫算ノ總金額ガ減ツタカト申シマスルト、是ハ緊縮ノ結果デハナイ、即
チ一方ニ於テ歳入ガ減リ、一方ニ於テハ從來爲シ得タ公債募集ガ爲シ能ハスト云フ狀
態ニ陷タタメニ、政府ガ努メテ緊縮ヲシタ結果ニアラズ、歳入ノ減少、及國債募集ノ不
可能ノ結果已ムヲ得ズ是ニ陷ツタデアリマス、即チ形ノ上カラ見マスルト、極メテ良好

ナ豫算ノヤウデアリマスガ、此ノ如キ形ガ出來マシタ原因ニ遡リマスレバ、即チ財政ノ不
信用、民間經濟ノ困難、此反映デアアルノデアリマシテ、豫算ノ全額ノ減リマシタコトハ、
寧ロ財政困難ノ一ノ證據ニナルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、(拍手起ル)此ノ如キ狀
態デゴザイマスカラ、緊縮ノ政策、又消極ノ政策ハ財政一點ノ上カラ見マスルト、十分
執ラナケレバナラヌデアアルガ、此點ニ付テ責任支出ハ相容レザルモノデアルト私ハ信ズ
ルノデアリマス(大ノウ／＼ト呼フ者アリ)殊ニ財政ノ前途ニ付キマシテ少シク私ハ申シタ
思フノデアリマスガ(簡單々々)無用々々ト呼フ者アリ)是ハヤハリ責任支出ニ重大ナ
關係ガアリマスカラ、大藏大臣ノ豫算ノ説明、又豫算書ヲ見マスルト、財政ノ真相
ハ分カルノデアリマス、併ナガラ今日ノ財政ハ私ノ見ル所ニ依リマスルト、日露戰爭後最
モ困難ナ財政ナリト私ハ考ヘルノデアリマス(ヒヤ／＼)以前公債募集ハ必要デアレバ
爲シ得ル狀態デアツタ、其後アレガ段々不良ノ狀態デアツテ、甚ダ不利益ナ條件ニアラザレ
バ公債ノ募集ハ出來ヌ時代ニナツテ、而シテ今日ニナリマシテハ公債募集ハ殆ド不可能
ナリト云フ狀態ニ陷ツタデアリマス、今日倫敦ニ於ケル公債相場ハ四分利ガ七十磅前
後、日露戰爭後此ノ如キ低價格ト云フモノハナイノデアアル、歐洲戰爭ノ影響モ勿論ア
リマスガ、日本ノ財政ノ信用モ亦與ッテ關係スルコトガ多イノデアリマス、此事ガ一ノ原
因デアアル、又歳入ガ先程申シマシタ通り伸ビナイ、寧ロ減ル、此事カ同ジク財政ノ困難
ナ事情デアアル、モウ一ツ財政困難ノ事情ヲ申シマス、軍事費ガ將來増加スルト云フコト
ハ是ハ豫想デハナイ、殆ト事實トシテ現ハレントシツ、アルノデアリマス、此點ニ付テ特
私ハ議員諸君ノ御注意ヲ請ヒタイト思ヒマスガ、二個師團問題ハ財政ノ上カラ申シマス
ト、二個師團ノ問題デケテハワレ程大ナル問題デハナイノデアリマスガ、二個師團ノ裏ニ
ハ海軍擴張ガアル、海軍擴張ノ裏ニハ更ニ四個師團増設ト云フコトガ伴ッテ來ルト云
フコトヲ、ドウシテモ考ヘナケレバナラヌデアリマス、二個師團問題ガ現實ニ提出サレマ
ス以前ニ於テ、海軍擴張案ハ今日定マレル以上三更ニ現實ニ提議サレタデアリマス、即
チ二個師團問題ハ海軍擴張ヨリモ先キニ此問題ガ出テ居ルト云フ有様デアリマスカラ、
二個師團問題ノ解決ハ直チニ海軍問題ガ起ル、是ガ原因トドウシテモ考ヘナケレバナ
ラヌデアアル、殊ニ最近ノ狀態カラ申シマス、今迄ノ軍艦デハ到底イカヌ、ドウシテモ近キ
將來ニ五萬噸ノ(問題外ト呼フ者アリ)——イヤ關係ガアル、五萬噸ノ戰艦ヲ要
スト云フ、是ハ海軍部内ノ調査ニナツテ居ル狀態デ、五萬噸ノ戰艦ニ付テハ一隻四
千二百萬圓ヲ要スル有様デアリマスカラ、將來起ルベキ海軍ノ經費ト云フモノハ少ナ
カラヌ金額ニナル虞レアルト考ヘナケレバナラヌ、又此問題ニ關聯シテ陸軍ノ問題ガ起ル、
而シテ私ハ甚ダ政府ニ對シテ遺憾ヲ感ジ、殊ニ責任支出問題ニ付テ遺憾ヲ感ジマス
ハ、政府ガ折角財政緊縮ノ消極政策ト云フ考ヲ内閣設立ノ最初ニ於テハ忠實ニ其政策
ヲ守ツタデアリマスガ、何時ノ間ニヤラ其政策ヲ棄テ、唯内閣ヲ維持セシガ爲メニ(ノ
ウ／＼)甚ダ亂暴ナル責任支出ヲ爲スト云フコトヲ致シマシタ結果、一方ニ於テハ將
來國防費ノ増加ト云フコトガ茲ニ現ハレテ、而モ其主張シタル消極的政策ノ裏ニハ、減稅
ノ政策ガ必然伴ハザルベカラザル時機ニ於テ、反對ニ増稅ノ端緒ガ將ニ開ケントシツ、アル
コトヲ悲ムノデアリマス、(拍手起ル)(心配御無用ト呼フ者アリ)私ハ非常ナ心配、ア
ナタ方ハ心配ナイカ知レマセウガ、若シ近キ將來ニ於テ軍事費ノ大ナル要求ガアリ、ツ

レニ關シテ増税ノ必要ガ起リマシタナラバ、其責任ハ現内閣及同志會ニアルト言ハナケ
レバナラヌ(拍手起ル)「大丈夫デス」ト呼フ者アリ、殊ニ此責任支出ノ結果ニ至リマシ
テハ甚ダ悲シムベキコトガ多クアル、私ハ餘リ之ヲ追窮スルコトハシマセテ併ナガラ我責
任アル大藏大臣ガ、本議場ニ於テ米價調節ハ失敗ニアラズト云フコトヲ言ハレタノヲ
聽イテ(然リト呼フ者アリ)轉テ政府ノ責任觀念如何ト云フコトヲ甚ダ怪ムアル、而
モ憲法ノ許ス第七十條ノ緊急處分ニ對シテモ議會ハ尙ソレニ承諾ヲ與フルトモ、或ハ承
諾ヲ與ヘザルトモ自由ニ出來ルノデアリマス、又法律命令ノ關係ニ於テ緊急勅令ノ事
ガ本議場ニ於テ屢々問題トナツテ居ルノデアリマス、緊急勅令ニ對シテ本議院ニ於テ承諾ヲ與
ヘザリシ例ハ甚ダ多クアル、私ハ永ク續クベキ法規ニ關スルヨリモ、一旦行ハレタ
ラ後テ取返シノ付カヌ緊急處分ニ就テハ、議會ガ一層慎重ナル審議ヲ加ヘザルベカラズト
思フノデアリ(拍手起ル)然レニ緊急處分ハ憲法違反デナイ、責任支出ハ憲法ニ規定ガ無
イ、大藏大臣ハ憲法之ヲ禁ゼズト申シマスガ、憲法ノ條文ノ解釋ヨリ見、又財政上ノ
見地ヨリ見テ、憲法ガ明ニ之ヲ禁ジテ居ル責任支出ニ對シテ、議會ガ其承諾ノ權ヲ濫
用スルト云フコトデハ、其結果洵ニ恐レベキモノアリト私ハ思フノデアリマス(拍手起ル)
緊急處分ニ就テサハ承諾ヲ與ヘザルコトガアルノデアリ、殊ニ其責任支出ニ就テハ其結
果洵ニ思ハシキ状態アル今日ニ於テ、之ニ承諾ヲ與ヘザルト云フコトハ、本議院ノ採ル
ベキ當然ノ處置ナリト信ジテ、敢テ茲ニ一言致ス次第デアリマス

○議長(島田三郎君) 守屋此助君

(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 守屋君暫ク——此際議場ニ御諮リスルコトガアリマス、大隈
總理大臣ヨリ議長ヘ御問合ニナリマシタ件ニ就テ御諮リヲ致シマス「ベスト」ノ事實ニ就
テハ先刻下閣府委員ヨリ御答シタ通りデアリマス、十分ニ離隔シテ居ルト云フ事實ハ
確實デアリマス、宮中ニ對シテハ嚴肅ニ御遠慮ヲ申上ケル、但シ今日ノ議事ハ重大ナ
ル議事デアリマスカラ、諸君ガ許サル、ナラバ出席ヲ致シテ其職分ヲ盡ス、併ナガラ此議
場ヘモ尙遠慮スベシト云フコトアルナラバ遠慮スル、議長ハ差支ナイト考ヘマスガ、諸
君ニ念ノ爲メニ此事ヲ御諮リ致シマス

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル「モウ出テ來テ居ルデハナイカ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) ツレデハ差支ナク出席セラル、コトニナリマシタ

○守屋此助君 滿場ノ諸君、唯今議題トナツテ居リマス此剩餘金支出ノ此事柄
ハ、帝國議會ガ二十二年ニ開ケテ四年ニハモウ斯様ナ事ガ始マツテ來タ、ツレデ二十四
年ヨリ二十九年マデノ間ハイロ／＼度々剩餘金支出ガゴザイマシテ、議論ガ複雑致シ
テ居ル、是ハ憲法違反デアアル、否ナ憲法違反ニアラズ、斯ウ云フデ帝國議會ハ其議
事ヲ二三三致シテ居ルノガ二十九年マデ、ツレカラ學者ノ學說ニ於キマシテ、剩餘金支
出ト云フ事柄ハ憲法違反ト云フ學說アリ、否ナ適法ノ支出デアアル、憲法違反ニアラズ
トノ學說アリ、ツレデ此事柄ハ學者ノ學說ニモ二通りアル、帝國議會ノ議事ニ於テモ二
十九年マデハ二通りアル、一度ハ憲法違反デ不承諾ヲ言フコトガアリ、一度ハ憲法違
反ニアラズト云フコトガアリ、二十九年マデ來テ居タ、所ガ二十九年後ハ——二十九年後ハ

如何ニ相成ツタカ、二十有餘年ノ其間、度々此剩餘金支出ガゴザイマシタガ、其間ニ於
テ政治家一人ノ議論トシテハ憲法違反ノ論アリ、學者一人ノ議論トシテハ憲法違反ノ
議論アリト雖モ、公ナル議會デアアル帝國議會、上下兩院、貴族院モ衆議院モ之ヲ憲
法違反ニアラズトシテ承諾ヲシタツコトガ二十九年ヨリ今日マデノ歴史デアリマス(拍手
起ル)然レトコロガ二十九年ヨリ今年マデ議論ガナカッタノニ、今年此事柄ニ就テ世ノ中デ
驚キト議論ガアル、何ノ事カト調ベテ見ルト、其議論ヲスル方ノ第一ハ餘リ剩餘金ヲ澤
山使ヒ過ギタ、金高ガ多過ギルカラ憲法違反デ、是ハ戲談ヲ言フニモ程ガアル(拍手起
ル)憲法違反ニナルトナラヌトハ金高ガ多カラウト少カラウト、ツレデ學問上ノ議論ガ違
フ譯ハナイ、一圓ノ物ヲ盜シテ泥棒、千萬圓ノ物ヲ盜シテ泥棒ハ一デアル、金高ガ多
イカラ憲法違反トハ抑、何事ゾヤ(拍手起ル)サウシテ更此金高ガ多クナル譯ガ分ラヌト
云フ、是ハ政治ヲ知ラナイ田夫野人ナラバ、忍シテヤデモ宜シイガ、政治ヲ知ツテ居ル
人間ガ金高ガ多イカラ憲法違反トハ何事ゾ、當年ノ如ク剩餘金支出ノ多クナル譯ハ能ク
分ツテ居ル、第一ハ歐洲戰爭ガ突發シテ居ルデハナイカ、ツレデ爲メニ臨時軍事費ト云
フモノニ澤山ノ金ヲ使ツテ居ル、是ハ能ク分ツテ居ル、ツレカラ其次ハ二年引續イテ豫算
ガ不成立其前ノ豫算ハ大正元年十二月五日ニ西園寺内閣ガ辭職シテ桂内閣ガ出來
タ時デス、桂サシガ出サレタ豫算、之ヲ山本内閣ガ拵ヘラレタガ、此豫算ハ成立シタウナモ
ノ、ドウモ抱負アル豫算デハ實ハ無カッタ、ツレデアリマスカラ、實ハ豫算不成立ハ二年デモ
事實ハ二年モ豫算ガ不成立ニナツテ居ルノデアリ、其後ヲ承ケテ歐洲戰爭ガ始マツタ、此
後ヲ神ナラヌ人間ガ政治ヲスレバ、剩餘金支出ノ多クナルハ當然デ、ツレカラモウ一
ツ此剩餘金——剩餘金デハゴザイマセヌ、此剩餘金支出ニ就テ議論ノヤカマシイ事柄
ハドウ云フ事柄デアアルカト云フト、僕ハ是ハ天下泰平ノ一ノ現象ダト思フ、何故ナラバ
ダ、ドウカシテ今ノ政府ノアララ後ヘテ攻撃シテヤラウ、何處カ過ヲ援ヘテヤラウト云フ
デ、探ネテモ種子ガ少イ(拍手起ル)「何ヲ云ツテル」ト呼フ者アリ、是ニ於テ二十年
來——二十年來帝國議會ニ於テ承諾ヲシテ來ツタ剩餘金支出ヲ二十年目ニ憲法違
反ト嗷鳴リ始メテ來タ、是ハ現内閣ノ攻撃スル種子、材料ガ少イカラ反對論ハ之ヲ以テチ
ヨット販カニナサルノダ(拍手起ル)ツコデ(採ルニ足ラズ)君ノ前ノ議論ハドウデアッタ「ト
呼フ者アリ」能ク靜ニ御聽キナサレバ能ク分ル、一人トシテハ帝國議會ノ議員ノ中ニモ
内閣大臣ノ中ニモ、一人ノ議論トシテハ憲法違反デト云フコトヲ言ウテ居ル人ガア
ル、併ナガラ日本帝國ノ公ナル機關ニ於テ、憲法違反ニアラズトシテ二十年來ヤツテ來
タノガ日本ノ政治デアアル、此事實ヲ知ラナクテハ駄目ダ(拍手起ル)日本ノ憲法史ヲ讀
ンデ來イ(變節改論「默レ」ト呼フ者アリ)ツコデ此事柄ニ付キマシテハ學說上左様ノ議論
ガアルニ拘ラズ、憲法制定ニ就テ與リ知ラル、者ガ最も忠實ニ力ヲ盡サレタル伊藤公、伊
藤公ノ内閣ノ時ニ當ツテ此剩餘金支出ト云フコトヲサレタルデアアル、其時ニハ伊藤公
ヲ助ケテ憲法制定セラレタ伊藤公、金子堅太郎君、斯様ナ人ガ伊藤公ヲ御
助ケ致シタ内閣ニ於テ先ツ致シテ居ル、此時ニ當ツテ伊藤公ノ胸中ヲ忖度シタ——學
說上學究論ニモ先生ナカ／＼能ク敬意ヲ拂ッダ人デアアルカラ、其點ニモ心ヲ注ガレタデ
ラウ、ツレカラ又腐儒天下ノ事ヲ誤ルト云フコトモ伊藤公ハ知ツテ居ル、後傑ノ士ハ當
世ノ務ニ通ズ、此所ヲ伊藤公先生考ヘタノデアアル、ツコデ伊藤公ノ内閣ニ於テ數回此剩

餘金支出ヲ致シテアリマス、其伊藤サンハ決シテ憲法違反ト確信シテ致サレナカッタノデアル、伊藤公ハ憲法違反ヲ思ヒ切テスル程ノ左様ナ憲法ニ對シテ罪人デハナイ筈デアル、サウデアリマスルカラ私ハ伊藤公モ是ハ憲法違反ニアラズト確信致シテナサレタ、サウシテ公ノ機關ニ於テハ是ハ憲法ニ適シタモノトシテ、帝國議會ノ認メテ居ル此事柄ヲ先ヅ第一ニ諸君ニ御聽取ヲ願フ置ク、サウシテ長島君ノ議論ヲ聽イテ驚キ且又敬服致シタ、ドウ云フ事デアル、長島君ハ故桂公ニ先ヅ仕ヘタト云ウテ宜カラウ、サウシテ殊ニ大藏ノ部面ニ御奉職ニ相成ツテ居ル、桂サンハ軍人デ憲法ハ伊藤サンヨリ少々知識ガドウデアツタカ、私ノ考ニハ桂公ハ法律憲法ハ我輩ハ素人ダト稠人廣座ノ前デ言ウテゴザツタ、伊藤サンハ憲法ハ素人デナイ、憲法ハ拙者ガ拵ヘタ、伊藤ガ憲法カ、憲法ガ伊藤カト云フ抱負ガアツタ、所ガ桂サンハ學者ノ長島サンニ御聽ニツタ、サウシテ此長島サンハ桂閣下ノ爲サルコトハ憲法違反ニアラズト答ヘタノデアラウカ、ソレカラ是ハ憲法違反デアルト言フタノニ拘ラズ、桂サン斷シテヤツタノデアラウカ、ソレハ内輪ノ事ダカラ、守屋此助ハ「エッキス」光線デナイカラ分ラナイ、ソレニシテモ桂公ノ内閣ノ時ニ度々、剩餘金支出ガシテアルノデアアル、所ガ此剩餘金ノ支出ノ事ヲ憲法違反ダト云フ事柄ヲ長島サンハ此所デ斷言ナサルガ、私ハ長島サンガ天下ノ國家ノ公事ノ爲ニ、私ヲ顧ミズニ此議論ヲ爲サル、其大膽ナ事ニ驚キ敬服シタ、間接ニ言ヘバ死屍ニ鞭タズ、恩人デアル桂サン、今日故人ト爲ラレタ御方ガシタ政治ヲ、間接ニハ憲法違反ノ行爲ヲ桂太郎ハ致シタト云フ事ヲ、其恩義ヲ受ケタ長島サンガ此所デ仰シタル、此大膽ニ驚イタ(拍手起ル)併シ驚クダケデハナイ、又敬服致シタ、ナゼナラバ天下ノ國家ノ公事ノ爲ニハ私恩ヲ顧ミズ——私恩ヲ顧ミズ此天下ノ公場此場ニ於テ之ヲ言フコトハ驚キ敬服致シタ、ソコデ我輩ノ考デハイロ／＼一個人トシテ議論ガアルデアリマセウガ、二十年來ズット斯ウシテ仕來ツタ事柄ヲバ、會計法ヲ改ムルトカ、豫算ノ豫備金ヲ殖ヤストカ、何トカ形ヲ變ヘナイデ——形ヲ變ヘナイデ或時ニナツテ俗ニ言フ鐵カラ棒ニ突然之ヲ憲法違反ト喚鳴ツタ、凡ソ——立憲政治ハ德義ノ政治、德義ヲ外レ、バ立憲政治ナシト長島サンノヤウナ物知リガ讀ンダ本ニハ書イタル筈デアル、ソコデ我輩ナドノ考デハ、今ノ内閣一個人ノ意見トシテ二十年ノ慣例ニ背ク事柄ヲ、突然變ヘルト云フコトモ考ヘモノダラウト思フ、況ヤ此公ノ機關デ極ツタコトヲ今ノ内閣ガシテ來タノヲ突然——突然是ハ憲法違反ダ、其責ニ任ジロ、一體アナタ方ガ帝國議會上下ノ兩院ガ、二十年來良イト仰シヤツタ事ヲ讀ンデ敬服致シテヤツタコトデアツタ、ソレヲ憲法違反ト云フ事ヲ言ウテ責メレバ、責ムル人ガ無理カ、責メル人ガ無理カ、責メル人ガ無理ナ仕事ヲシタノカ、責メル人ガ無理ナ責メ方ヲスルノデアアルカ、憲法政治ハ德義ノ政治デアアル、此處ノ所ニドチラカ德義不德義ガ始マルガ、尤モ德義ト云フ觀念ヲ長島サンノ頭位ニ自由ニ使ヘバドウデモ使ヘル、ソレデ憲法上ノ議論ト致シマシテ、ソコデアリマスルカラ學說上ノ議論、若クハ個人ノ議論デイロ／＼アツテモ、政治上ノ議論ト致シマシテハ、私ハ是ハ今日外ノ法規ヲ改ムルトカ何トカ致シマセヌ以前ハ、是ハドウシテモ適法ノ事柄ダト云フコトヲ是マデ認メラレテ來テ居ルノダカラ、政治家ハソレデ認メテ行クト云フ事柄ガ憲法政治ノ德義ダト思ヒマス(拍手起ル)ソレカラ其次ニ諸君ニ政友會ノ諸君ガ委員會デ仰シヤツタ事柄ガアリマシテ、此後ニ出ルコトニナラウト思ヒマスル點、サウシテ又世ノ中ニ是ガ憲法上ニハ適法デアルトシテモ内

容ニ入ッテ此仕事、此事柄ガ承認ガ出來ヌト云フ部分ノ事柄ニ就テ、私ニ今暫クノ間議論ヲスル時間ヲ與ヘル光榮ヲ與ヘ給ヘ(「謹聽」六時マデヤリ給ヘ)ト呼フ者アリ)是ダケノ時間ヲ我輩ニ與ヘ給フタ光榮ニ向ツテ謹シテ感謝ノ敬意ヲ表シテ是カラ申上ゲマス、其中ニ就テ餘リ細カイト申スト事柄モ複雜デアリマスカラ、最モ大ナル事ヲ申シマシテ、他ノ事柄ハ大概類推シテ分ルト思ヒマスカラ、大キナモノニ就テ申上ゲマスルガ、臨時軍事費ガ二千六百幾十萬圓合計アリマスル、第三號即チ大正三年四月一日ヨリ大正四年五月十六日ニ至ル此間ノモノデ、即チ此第三號ノ分デアリマス、一號二號ノハ政友會ノ諸君モ何人モ全部承認、憲法違反ノ論ノ人ハ格別ダガ憲法違反デアナイト云フ人ハ全部承認論デアアル、十八人ノ特別委員デ憲法違反デ不承諾ト云フノハタツタ名譽アル野添宗三君一人、外ノ者ハ一同憲法違反論ハ委員會デナカッタデアリマスガ、所ガ内容ニ入ッテ大正三年四月一日ヨリ大正四年五月十六日ニ至ル間ノコトニ於テ、不承諾ノ意ヲ表スルト云フ事柄ガ、第一ガ臨時軍事費、獨逸ト戰爭スル此費用、之ニ承諾ヲ與ヘヌト云フ、ソコデ其議論ハ憲法七十條ニ依ルベシデアアル、此剩餘金支出ノ形ニ依ラナイデ憲法七十條ニ依ツテ爲スベキデアルト云フト、政府ハ曰ク、戰爭ノ時デアツタカラ朝、夕ヲ測ラズト云フコトデ、出師ノ準備ナンドハ一刻遲レバ百年ノ悔ヲ貽スノデアアル、右様ナ場合デアアルカラ日清戰爭ノ時ニ伊藤公爵モ此手ヲ執ツテ居ラレ、日露戰爭ノ時ニ大政治家ノ桂サンモ此手ヲ執ツテ居ル(「長島ハ逃ケタ」ト呼フ者アリ笑聲起ル)デアアルカラ先ヅ伊藤公桂公ニ敬意ヲ表シタカ表セヌカハワレハ知ラヌガ、現内閣ハ先ヅソレト同ジ手デ、日清戰爭日露戰爭ト同ジ形デ獨逸ト戰爭ヲシテ居ルト云フ斯ウ云フ話、吾々ハ先ヅ是ハ是トシテ認メテ宜カラウト思ヒマスルガ、詳シイ事柄ハ對手方ガ言ハナイノ敵無ニ矢ヲ放ツ心地ガスルカラ此位ニ止メテ置ク(笑聲起ル)ソレカラ其次ニハ米價ノ調節、蠶絲ノ救済、米價調節ニ三百萬圓出シタ、絲ノ値段高クスルト云フコトデ生絲ノ救済ノ爲メニ五百萬圓ノ金ヲ政府ガ出シタ、此金モ使ヒ切ツテシマフノデアナイ、米ヲ買フタラバ米ガアルノデアアル、絲ヲ買フタラバ絲ガ殘ツテ居ル、橫濱ノ海ヘ流シテシマツタリ奥州ノ隅デ燒イテシマツタノデアナイ、マア免ニ角ニ金ガ三百萬圓ト五百萬圓ト出テ居ル、是ハ無用ナコトダト云フ、所ガ政友會ノ諸君ハ無用ナコトダト一面言フテ置キナガラ(「無用トハ違ヒマス」ト呼フ者アリ)昨年ノ二十五議會、昨年ノ末ニハ米價調節ハ致スベシ、米價調節ニハ米ヲ買入ノ策ヲ取ルベシト云フ建議モナサツタ、法律案モ出タヤウニ思ツテ居ル(其通り)ト呼フ者アリ笑聲起ル)所ガ議會ガ解散ニツタカラ——議會ガ解散ニツタカラ政府ハ茲ニ剩餘金ガ有ツタカラ、此剩餘金ヲ出シテ米ヲ買フタ、ケレドモ、米ヲ買ツテモ米價ガ騰ゲナカッタカライカスト斯ウ云フ、上ゲナカッタカライカヌ、サウ云フノデセウ、政友會ノ諸君ハ——ソレデ米ガ彼ノ時ハ十一圓何ガシタカ十二圓何シボト云フ相場デアツタガ(「モット安カッタ」ト呼フ者アリ)十一圓ヲシナカッタガ二十五議會デ政友會ノ諸君モ唱ヘ、現政府モ其意向ヲ漏シタカラ、天下ノ人ハ米ノ救済ハ政府ガスルナト斯ウ思ツタカラ、彼ノ米ノ方ガ未ダ十圓デ保ツタカ知ラヌ、アノ聲ガ無ケラネバ十圓ヲ潛ア八圓ニナツタカモ知ラヌ(拍手起ル)「ヒヤ／＼」ト呼フ者アリ)ナツタカモ知レナイ、神ナラヌ身デドウシテクシナラアノ十二圓ノ時ノ米相場ヨリ下ゲヌト云フコトヲ誰ガ言ヒ能フルカ、ソレヲ言ヒ能フル人ハ其心ヲ欺キ嘘ヲ言フノ

デアル、是ハ分ラヌト云フノガ本統デアル、サウシテ見レバアレヨリ下ルカモ知ラヌガ是ハ現政府ノカトモ言ハナイ、政友會ノ諸君ハ御建議モ遊バシタ、法律案モ御出シニナリ、前ノ大藏大臣ノ高橋是清君ナドハ、政友會ノ調査會デ米ノ買入ニ付テイロ、御名論ヲ御唱ヘニナタ、其力ガ與ッテ、時米ノ直段ガアレダケ保ッテ居ラウト思ヒマス、此調節策ガ出來タカラ何處ノ國デモ米ガ一圓若クハ一圓五十錢、神戸ハ二圓騰ゲタデハアリマセヌカ、是ハ各米ノ取引所ノ相場分ッテ居ル、斯ウ云フ譯デアル、ソレデアルカラ是ハ米價調節ガ要ナリ、要ラナイノデハナイ要ルノデアル、要ルノデアルガ、ヤリ方ガ惡イ、ドウダ上ゲナクッタ、アレガ上ゲレバ二十圓ニモ上ゲタカッタノデアルガ、サウハイカナ、サウハイカナ、サウデアルカラアレガ效ガ無カッタカラト云フ、憲法違反ニハ非ズ、剩餘金支出ト云フコトハ憲法ニハ適シテ居ルガ、米ノ調節ヲシタ效ガ無カッタカラダト云フケレドモ、效ガアッタデハナイカ、效ガ有ッタデハナイカ、ソレカラ又絲ノ救済ノコト亦然リ、亦然リト呼フ者アリ、サウトモ、大ニ然リト呼フ者アリ、大ニ然リト呼フ者アリ、絲ハ横濱デハ六百八十圓ト云フ安値ガ出テ居ル、アレモ絲ノ救済ト云フコトガ無ケラネハ五百圓臺ニ落チタカモ分ラナイ、カモ分ラナイノデ、是ハ五百圓ニ落チタルト云フコトノ斷言モ守屋此助ハシ能ハナイ、ソレト同時ニ必ズ下ラヌト云フ事柄モ言ヒ能ハヌト云フ事柄ガ智慧ノアル人ノ言フコトデアル、(拍手起ルナカ、守屋君ハ智慧ガアルネ)ト呼フ者アリ、所ガ此絲ノ調節ヲスルト云フコトノタメニ、ヤハリ横濱デ諸君ガ御承知ノ通りノ蠶絲會社ヲ出シテ絲ヲ買ッテナラバ、免ニ角百圓以上騰ゲテ居ルノデアル、(其通りト呼フ者アリ)騰ゲテ居ル、是ハ政友會ノ人デアッテ横濱ノ取引所ノ理事ヲナサデ居ル渡邊修君ノ如キハ、實地目撃シテ居ルカラ能ク知ッテ居ル、(拍手起ル)斯ウ云フコトデアル、斯ウ云フ效ガアッタ、斯ウ云フ效ガアルノニソレハ效ガナイト云フ、尤モサウ言ハナケレバ政略上イカヌモ知ラヌ(笑聲起ル)現内閣ノシタコトニハ米價調節效ガアッタ、絲ノタメニモ效ガアッタ、斯ウ政友會ガ言フテシマッテハ、現内閣ハ頌德表ヲ奉ルコトニナルカラソレハ悔シイ、マア政友會ガ敗ケテハ(笑聲起ル)ソレカラ最モ諸君ノ公平ナル判斷殊ニ國民ノ——忠實ナル國民ノ能ク此事柄ヲ大聲叱呼シテ聽イテ貰ハネナラヌコトガアル(笑聲起ル)謹聽タタ、大聲叱呼シテ聽カウ、珍妙ナルカナト呼フ者アリ、ソレハ何デアル、ソレハ大正四年ノ中ニアリマス陸軍省所管ニ一千二百三十七万一千百三十九圓ト云フ、大正三年臨時軍品費ト云フノガアル、ソレカラモウ一ツハ此大正三年度ノ分ニ二百四十万六千四百七十圓、大正三年臨時軍事費ト云フノガアル、此金デス、尤モ大正三年分ハ全部デモアリマスガ(エー)ト呼フ者アリ(笑聲起ル)サウ痛クハナイヨ、軟カニ言ッテ上ゲルカラ靜カニ待ッテ居給ヘ(笑聲起ル)妨害ヲシナイデ靜ニシ給ヘ、餘リ痛イ程突カヌヤウニシテ上ゲルカラ、(少シ聽イテ居ル)ト呼フ者アリ(笑聲起ル)是ハ何ノ金デアルカ調ベルト云フト、某國ヨリ日本ハ戰爭ニ使フトコロノ軍人ノ使フ靴、軍人ノ使フトコロノ羅紗、斯ウ云フモノヲ日本國ヘ向ッテ注文ヲシニ來タ、某國軍人ガアル、此某國ノ軍人ハ是デケデハナイ、外ニモ殆ド一億何千万ト云フモノヲ日本ニ注文ヲ致シニ來タ、ソコデウカ此事柄ハ某國ニ向ッテ、日本國ハ一億何千万ノ物ガ速ニ供給ガ出來ルダケノ諸般ノ設備ガアルナレバ、日本ノ國ノ富ノ増ス事柄ト云フコトモアルガ、ソレハ内輪ノコト、サウデナクシテ外ニ向ッテ共同ノ敵ヲ撃ツノニ、此某國ヲ助

クルト云フ事柄ガ出來ルノハ、將來國交親善ノ上ニ於テ得ルトコロ非常ニ多イノデアル、(拍手起ル)ソレカラ又一度日本カラ物ガ某國ノ方面ニ向ッテ輸出ノ端ガ開ケレバ、長江大河ヲ決シタルガ如ク戰ガ濟ンダ後デモ滔々ト流レ込ムノデアル、(拍手起ル)笑聲起ル、左様ナ譯デアルカラ、ドウカ全部ヲ引受ケタイと思フハ日本國民ノ智慧ノアル階級ノ者ガ皆思フ、馬鹿ハ知ラヌカラ何トモ思ハヌ(拍手起ル)然ルトコロガドウモ其日本ノ市場ガソレデケノ物ヲ供給ガ出來ナイカラ、悲シイ哉大部分ハドン、御鄰リノ五千哩ノ海ヲ隔タ餘所ノ國ニ飛ンデシマッテ、悲シムベシ、トコロガ此軍人ノ方ノ軍靴、軍絨是ハドウ云フコトデアルカト云フト、日本ニ之ヲ製造スル店ハ澤山アルガ、工場ハ澤山アルガ、此處デ注文スルト、例ヘバ靴ノ注文ヲ此所ニスレバ勝手ナコトヲ言フ、其靴ノ材料ヲ有ッテ居ラヌカラ、靴ヲ仕入レルニ十人ガ掛カレハ十色デアル、原價ヲ羅上ゲル、斯ウ云フコトデアルカラ速モ纏ラヌ、ソレカラ信用ガ出來ヌト云フコトデアルカラ、是ハ日本ノ陸軍省デ——日本ノ陸軍省デ共同ノ敵ヲ討ツト云フコトガ第一ノ目的、第二ハ國交ヲ親善ニスルト云フ事柄ガ目的、第三ハ日本ノ工業、商業ヲ發達セシムルト云フ事柄ガ目的、凡ソ此位ノ目的ヲ以テ剩餘金ヲ支出サシテ陸軍省ガ其某國ニ向ッテハ責任ノ面ニ當リ、内ハ商人工場ニ向ッテハ陸軍省ガ此媒介ヲスル、此媒介ヲスルコトノタメニ某國カラ前金ハ渡シテ呉レナイ、前金ハ渡シテ呉レナイノデアル、日本ノ市場デ靴ヲ造ルトカ羅紗ヲ造ルトコロノ店ハ何百万ト云フ資金ヲ一時ニ支出スル途ガナイノデアル、是ニ於テカ智慧ノアル政治家ハ何トスレバ諸君宜イノダ、人ノシタコトハ惡口ハ勝手ニ言フガ宜イ、此時ハ誰ガ局ニ當ッテモ手ヲ拱イテ——又斯ウ云フ事柄ヲ五千哩ノ海ヲ隔テ、出ア行クノ手ヲ拱イテ見テ居ルカ、(ノウ)ト呼フ者アリ、見テ居ルノデアルカ、見テ居ルナラ見テ居ルト誰カ言フテ御覽ナサイ、言フ勇氣ガアルカ、(拍手、笑聲起ル)勇氣ガナクンバ此政府ガシタ事柄ヲ良イト言ハナケレバナラヌ、(拍手起ル)政友會ノ内閣ハ斯様な事柄ヲダ、斯様な事柄マデモ政府ガシタコトハ氣ニ入ラナイ、何デモ政府ヲ破壊シテケチ付ケル、斯ウ云フコトヲ言フカラ世ノ中ノ人ガ口ク、近頃ノ議會ト政權爭奪ガ本デ(拍手起ル)皇室國家ハ一ノ次ニスル政治家ガ多クナッタノハ國家ノ憂デ(拍手起ル)或ル一部分ノ政治家ヲ忠實ナル國民ハ「ベスト」ノヤウニ見テ居ルノデアル、(拍手、笑聲起ル)併ナガラソレニ同意シテ居ル人モソレハ多少ハアル、多少ハアル、斯ウ云フ譯ガ、斯様な議會デアリマスカラ第一憲法論ニ就キマシテハ、前申上ゲマシタ通ニ、私ハ此憲法論ハ、政治論ヨリノ觀察點ニ於キマシテ二十年來公ナル機關デ定ッタル此解釋ニ違フベキモノデアッテ、憲法違反ニアラズ、ソレカラ第二ハ憲法違反ニアラズトスルモ、内容ガ氣ニ入ラヌト云フコトノ大項目ヲ申上ゲテ見レバ、アノヤウナモノデアリマスガ、此米價調節、蠶絲救済、某國ニ向ッテノ軍需品ノ供給、皆良イコトヲシタノダ、(ヒヤ)ト云フ、斯ウ云フ政治ヲ爲サレバ政友會ノ諸君ガ政治ヲシタキデモ、守屋此助今ヨリ豫約ヲシテ置クガ御褒メ申ス(拍手起ル)御褒メ申ス(笑聲起ル)實ハ内容ノコトニ就テハ、政友會ノ諸君ガ否認論ヲナサタ後デ私ガ壇ニ登リマシテ敬意ヲ表スルト云フト、今少シ能ク餘計申上ゲル種ガアリマシタノニ、何分敵無キニ矢ヲ放スコトハ如何ナ名將デモ出來ナイ、(拍手スル者アリ)笑聲起ル、況ヤ我輩ノ如キ弱卒デハ連モイケナイ、(ノウ)ト呼フ者アリ、ソレデアリマスカラ以上、點ニ於キマシテ我輩ハ此吾々同志

者ガ、全部ニ承認ヲ與フルト云フ事柄ノ意思ヲ表明スルタメニ以上ノ演説ヲ致シタ
所以デアリマス

(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 關直彦君

(關直彦君登壇)

(拍手起ル)

○關直彦君 諸君、私ハ唯今マテ同志會ヲ代表サレタル名譽アル守屋此助君ノ

御演説ヲ謹聴致シマシタ、餘リニ御雄辯デアリマシテ、餘リニ高遠ナル理想デアリマス

メニ、私ガ之レニ向テ一々反駁スルノ勇氣ヲ持タセヌコトヲ遺憾ト致シマス(拍手起ル

「材料ナシ」ト呼フ者アリ)唯一言申シタイノハ、餘リニ現内閣ヲ擁護スルニ御親切デアリ

マシテ、憲法ト云フコトヲ御忘レニナツタカ知ラヌト云フコトヲ甚ダ遺憾ニ思フデアリマス

(「ノウ」ト拍手起ル)諸君、今回ノ此問題ト相成リマシタル剩餘金ノ支出、此額ハ約

六千餘萬圓、少々額デハゴザリマセヌ、又其支出ノ當否ハ別問題ト致シマシテ、之ヲ文

出スルト云フコトガ元來憲法及ヒ法律ニ違反ノ所爲デアルト云フコトハ疑ナキノデアリマ

ス、成程憲法及ヒ法律ニ違由シマスルト多少窮屈ナル點ノアルハ免レナイノデアリマス、憲

法ニ依リマシテ吾々ガ豫算ヲ協賛致シマシテ、其豫算通りニ當局者ガ執行ヲシナケレバ

ナラス、其豫算ニ不足アル場合ニ於キマシテハ、第一豫備金ノ支出ヲ求メ、第一豫備

金ニ不足アリマスルカ、若クハ豫算外ニ支出ヲ要シマスル場合ニハ第二豫備金ノ支出ヲ

求メルデアリマス、而シテ尙ホ足ラザル場合ニ於キマシテ、萬々一必要ノアリマスル場

合ニハ尙ホ憲法七十條ニ依リマシテ、非常ナル場合ノ支出ノ途ヲ設ケラレテ居ルデア

リマス、此以外ニ於キマシテハ如何ナル法律ニ依リ、如何ナル條項ニ依リマシテモ一錢

一厘ノ支出モ禁ジラレテ居ルデアアル、斯様ニ申シマスレバ、政務ハ一日ニ輾轉シテ參

ルデアアルカラシテ、左様ニ窮屈ニセラレテハ政務ノ運用ノ上ニハ甚ダ迷惑デアルト云フコト

ヲ當局者ハ言ハレノデアリマス、ソレハ尤モデアリマス、尤モデアリマスルガ、其窮屈ナル

ガ即チ立憲政體ノ妙味ノアル所デアルト思フデアリマス(拍手起ル「ノウ」ト呼フ

者アリ)若シ之ヲ自由我儘ニ必要アリト認ムル毎ニ剩餘金ヲ支出致シマシタラバ、如

何ナル程度マデ參ルカハ知レナイノデアリマス、現内閣ハ責任ヲ重ズル諸公デアリマス、責

任ヲ重ズル諸公デアリマスルカラ、無暗ノコトハナサヌカ知レマセヌガ、既ニ六千餘萬圓

ノ責任支出ヲサレテ居ルデアリマス、若シ以上ノ無責任ナル諸君ガ局ニ當ラレマシタ

ナラバ、一億圓、二億圓其底止スルコトヲ知ラヌノデアリマス、之ヲ禁ズルノガ即チ憲法

デアリマスカラ、此憲法ガ禁ズル點ハ嚴重ニ吾々ガ守ラナケレバナラヌト信ズルデアリマ

ス、勿論吾々ノ職責トスル所ハ免モ角モ此内閣ノ爲シタ所ノ正否ハ姑ク措キマシテ、成

ベク政府ヲ監督シテ憲法ニ違反ノ行爲無カラシメルヤウニ、吾々ハ忠實ニ憲法ヲ守ルノ

ガ、黨派問題デモ何デモアリマセヌ、吾々全體ノ責任デアルト信ズルデアリマス、此問

題ガ憲法違反デアルト云フコトハ、最早私ハ一定ノ論ガアルト思フ、現ニ此處ニ列セラ

レテ居リマス一木博士ノ如キ、武富遠相ノ如キ、又尾崎君ノ如キ、現ニ唯今演説ヲサ

レマシタ守屋君ノ如キモ、昨年マデハ吾々ト同論者デアッタノデアリマス、同志會ノ名譽

アル加藤政之助君ノ如キモ、此演壇ニ立ッテ憲法違反ノ議論ヲサレテ居ルデアリマス、

我友黨デアアル中正會ノ花井博士、早速君、加瀬君、高野君、何レモ此演壇ニ立ッテ違

憲ノ論ヲ述ベラレマシタ、現ニ武富君ノ著サレマシタ豫算論即チ財政便覽ノ四百五十

頁ニ斯様ニ書イテ居ルデアリマス(論者或ハ豫算ニ掲載セル豫備費ノ竭盡セル場合ニ

於テモ國庫剩餘金ヲ豫算ノ款項超過及ヒ豫算外ノ支出ニ供シ、後日帝國議會ノ承

諾ヲ求ムレハ憲法違反ニ非スト主張シタルコトアリト雖モ是レ決シテ正當ナル見解ニ非

ス)申サレテ居リマス(何トナレハ豫算ノ規定ニ依ラスシテ支出ヲ定メ財源ヲ供スルノ特

例ハ全ク憲法七十條ニ限定セル除外例ニ限リ此緊急處分以外ニ政府ノ專行ヲ許サ、

ルナリ)ト武富君ハ論セラレテ居ルデアリマス、又一木君ノ「法令豫算論」ニモ同シ様ナ

論旨ヲ以テ論セラレテ居ルデアリマス、重復ハ憚リマシテ之ヲ茲ニ朗讀致シマセヌガ、一木

君ハ定メシ御忘レデハアルマイト信ズルデアリマス、此點ニ對シテ或人ガ一木文相竝ニ

武富遠相ニ質問ヲ試ミマスルト、斯様ニ辯解サレタノヲ傍聽シテ居タノデアリマス、一八

ノ見解ハ左様デアルケレドモ、公ケノ決定ニハ從ハナケレバナラヌデアアル、恰モ個人ガ

裁判ハ甚ダ自分ノ服サマル所デアラウト雖モ、此裁判ニハ服從セネバナラヌト同シ事デ

アル、斯様ニ申サレタノデアリマス、御尤ノ次第デアリマスガ、奈何セン此裁判ヲシ

タ方ガ誰デアアルカ、此内閣ニ於キマシテハ、違憲論ヲ持ッテ居ル所ノ裁判官タル武富

君ガ居ラレマス、一木君其人ガアル、尾崎君モ其人デアアル、河野君モ其人デアアル、殊ニ

首相タル大隈伯ハ其人デアアルデアアル(拍手起ル)裁判長及ヒ裁判官ノ多數トモナルベ

キ人々ガ、違憲ノ議論ヲ持ッテ居ッテ、其下シタ所ノ判決ガ全ク憲法ニ反イタ判決ヲ下

スト云フコトハ、一體何事デアリマス、人ノシタル判決ニハ服從セネバナリマセヌケレドモ、

自ラ裁判官ニナリ、自ラ裁判官ノ多數ヲ占メテ居ルデアリマス、若シ其意見ガ行ハレナ

ケレバ何モムツカシイ事ハアリマセヌ、冠ヲ挂ケテ其職ヲ擲去リニナレバ宜シイ、又政友會ノ

内閣ノ時ニ於キマシテモ、此議論ガ既ニ一定サレテ居ルデアリマス、今守屋君デアリマ

シタカ、議會ハ二十年以來既ニ違憲デナイト決定シテ居ルト云フコトヲ申サレタノデアリ

マスガ、左様ナコトハ嘘デアリマス、第二十議會ニ此問題ニ付キマシテ斯様ナル議事ガ

アッタノデアリマス(今マデノ政府ハ憲法六十四條二項ニ依リ提出シ憲法上適法ナル行

爲ト稱シ居リシガ爲メ、二十議會ニ於テハ憲法違反ナリト論斷シタノデアアル、併シ政府

ハ吾々ト同一ノ意見ヲ執リマシテ憲法ノ認メサル行爲デアアル、乃チ責任支出ヲ爲シタノ

デアアルカラ、其責任解除ノ爲メニ議會ニ提出スルモノナルコトヲ言明スル以上、吾々ノ意

見ト符合シテ本問題ハ解決サレタト云ッテ差支ナイト思ヒマス、吾々ハ數度ノ慣例ニ依

リ憲法運用ノ妙ヲ得ル爲メニ政府ハ憲法ニ認メザル行爲ヲ爲シタモノト解釋シテ、其

内容ヲ慎重ニ審議シ適法ト認メマシタカラ承諾ヲ與ヘタノデアリマス(是ハ松田源治君

ガ政友會ヲ代表サレタ所ノ演説デアリマス、政友會ノ内閣ノ大藏大臣タリシ高橋藏

相ヲシテ議會ニ於テ此責任支出ハ憲法ニモ據ラナイ、法律ニモ據ラナイモノデアアルガ、已

ムヲ得ナイカラ承諾シテ與レト云フコトヲ言明セシメタノデアリマス、サウシテ見マスレバ既

ニ議會ニ於キマシテモ、我政府ニ於キマシテモ、此剩餘金ノ支出ト云フモノハ違憲デアアル、

恰モ罪人が罪ヲ犯シテ罪ハアルト判決ヲサレマシタガ、執行猶豫ヲ與ヘタト同シ事デア
アルノデアリマス、前ノ政友會内閣ニ向ッテハ政友會ハ自黨ノ内閣擁護ノ爲メニハ議
論ハ曲ゲル譯ニハ行カナイ、違憲デアル、違法デアルト云フ議論ハ流石ニ曲ゲル譯ニハ
行キマセヌカラ、法律違反デアル、憲法違反デアルト云フ自白ヲサセテ、自白ヲシタ以
上、罪デハアルガ其罪ノ執行ヲ猶豫スルト云フコトノ判決ヲ與ヘタノデアリマスカラ、罪
ト云フコトニ付テハ斷シテ疑ハ無イノデアリマス、ソレカラ此中ノ内容ニ付テハ一言致シ
マスルカ、此支出ノ中ニハ臨時軍事費及臨時事件費ト云フモノガアリマス、是ハ其内
容ニ於テハ已ムヲ得ヌト云フコトハ當然デアリマス、決シテ私ハ其内容ガ惡イトバカリ申ス
ノデハナイ、然ルニ此臨時軍事費及臨時事件費ト云フモノハ、何故ニ憲法ニ明カニ定
メラレテアル所ノ適當ナル條項、七十條ニ依ッテ何故之ヲ支出シナカッタノデアルカ(拍手
起ル)是ガ説明ヲ求メマスルト大藏大臣ハ頗ル窮セラレテ、何分忙シカッノデアル、何分
急場ヲ要スル場合デアッタカラ、其手續ヲ經ルノ暇ガナカッタノデアルト辯セラレタノデア
リマスガ、暇ガナイコトハナイノデアリマス、國家急要ノ場合ニ當リマシテハ、手續ハ樞密院
ノ議ヲ經サヘスレバ宜イノデアリマス、樞密院ノ議ヲ經テ御裁可ヲ經レバ宜イノデアリマス、
斯ル場合ニ於キマシテハ樞密院ハ徹夜シテモ議決ヲ致スコトハ間違ナイノデアリマス(拍手
起ル)其手段ヲ取ラナカッタハ何故デアルカ、又ソレモ宜イト致シマセウ、其初ノ場合ハ危
急ノ場合デアッタカラ、其暇ガナイト云フコトヲ認メルトモマシテモ、其後ニ於テ尙多數ノ臨
時軍事費及臨時事件費ヲ支出シテ居ルノデアリマス、何故此時憲法七十條ニ據ラ
ナカッタノデアル、正當ニ憲法ニ據ルベキ途ヲ示シテアルニモ拘ハラズ、初メニ其罪ヲ犯シタ
モノデアリマスカラ、一州ヲ取ルモ誅セラレ、八州ヲ取ルモ誅セラレ、誅ハ一ノミ、ドウセ違憲
ノ行爲ヲナシタ以上ハ面倒臭イ手續ヲ經テ樞密院ノ議論ヲ醸スヨリモ、斷然ヤッデシマフ
ト云フノデアリマスハレタモノデナイカ、餘リ無責任デハアリマスマイカ、又或者ハ辯護シマフ
申シマスルノニ、米價調節ハ必要デアルカラ、米價調節ノ爲メ剩餘金ヲ出シタノデアル、或
ハ蠶絲救済ガ必要デアルカラ蠶絲救済ノ爲メ五百万圓ノ剩餘金ヲ出シタノデアル、或
ハ尙外カラ運動ガアリマシタラマダ多クノ剩餘金ヲ出シタカモ知レヌノデアリマス、米價調
節ハ必要デアルカモ知レマセヌ、米價調節ハ必要カハ知レマセヌガ、米價調節ガ重イカ、憲
法ノ蹂躪ガ重イカ、是ハ輕重ノ問題デハナイノデアリマス(拍手起ル)又大藏大臣ハ頻リニ
貴族院ノ質問ニ對シマシテモ、當院ノ質問ニ對シテモ唯答辯スルトコロノ要點ハ一點シ
カナイ先例ガノトバカリデアリマス、前ノ内閣デモシタカラ今ノ内閣デモシタノデアル、前
内閣内閣モヤッタカラ、今ノ内閣モヤルノデアル、唯前例ガアルトバカリ述ベラレテ、其他ニ
何等ノ理由ヲ述ベラレナイノデアリマス、若シ其前例ガ好前例デアレバ宜イカ、人ガ罪惡
ヲ犯シタカラ自分モ罪惡ヲ犯シテ宜イト云フコトハ論ニハナラナイノデアリマス(拍手起ル)
而シテ毎年々々此問題ガ此議會ニ現ハレレ度毎ニ必ズ此問題ガ起ル、違憲ノ問題ガ起ル
ノデアリマス、現ニ私ガ先刻申述ベマシタ通り、此處ニ居ラレ諸君ガ皆此論ヲ持ッテ居
ラレノデアル、常ニ各議會毎ニ貴族院ニ於キマシテモ、當院ニ於キマシテモ、紛々タル議
論ヲ醸スノハ此問題デアルノデアリマス、サウシテ見マスレバ此問題ガ世間一般ニ承認シ、
雙方ノ議院ニ於テ承認シタルノ好先例トハ認メラレナイノデアリマスカラ、若シ果シテ是
ガ惡先例デアラナラバ、吾々ハ此壇上ニ立ッテ此議席ニ於テ、與ヘラレタル權能ヲ以テ此

先例ヲ匡正スルコトニ何ノ躊躇スルトコロガアリマセウ(拍手)假令大審院ノ判決デアリ
マシテモ、其判決不當デアリマスレバ、聯合ノ會議ヲ開イテ其判決ノ先例ヲ直サレノデ
アリマス、法律ノ解釋ヲ統一スルトコロノ大審院ニ於テスラ尙且然リ、殊ニ吾々ガ憲法
上ニ於テ與ヘラレタル權能ヲ發揮シテ、當議場ニ於テ正當ニ憲法ヲ解釋シ、憲法ノ解釋
ヲ遂行シマスレバ、後日政府ヲシテ斯ル違憲ノ處置ヲ爲サシメナイト云フコトハ何時デモ
出來ルノデアリマス、即チ之ヲ不承認ニスレバ宜シイ、門前拂ニスレバ宜シイノデアリマス、
私ハ全然委員長ノ承諾ト云フ御報告ニ對シテハ全然反對——門前拂ラヌルト云フ意
見デアリマシテ、現内閣ハ種々ノ點ニ於テ種々ナル議論ヲ招イデ居リマスガ、此問題デ
ケデモ既ニ其處決ヲ促スベキ價值ガ十分ニアルト信ズルノデアリマス(拍手起ル)
○議長(島田三郎君) 古屋慶隆君

○古屋慶隆君登壇

○古屋慶隆君 (誰ダト呼フ者アリ) 古屋慶隆デス——諸君、唯今私ノ最モ尊敬スル
關サンカラ責任支出ハ憲法違反デアルト云フ最モ有力ナル議論ヲ拜聴致シマシタ、關サ
ンノ御意見ヲ概括シテ言ヒマスルト云フト、議會ハ豫算ニ協賛スル權能ガアルノデアルカ
ラ、豫算外ノ支出ト憲法第六十九條及第七十條ノ場合ヲ除クノ外ハ絕對ニ憲法
違反デアル、斯ウ云フ私ハ御意見ノヤウニ解釋シタノデアル、此御意見ニ對シテ私ノ見損
ヒデアリマスガ、政友會ノ諸君ガ大ニ拍手セラレタト云フコトハ私ハ甚ダ其意ヲ得ナイノ
デアル、ナゼ拍手セラレタノデアルカト云フト、政友會ノ議員諸君ノ御意見デアハデスナ、ヤ
ハリ私ノ意見ト政友會ノ意見トハ同一ニ歸スルダラウト思フ、詰リ其事柄ガ緊急缺
ベカラザル場合ノモノデアラナラバ承諾ヲ與ヘル、是ハ憲法違反デナイト云フ議論ヲ、政
友會ノ諸君ハ常ニ爲サッテ居ルノデアル、私モ此點ニ付テハ大ニ贊成デアル、然ルニ關サ
ンノ御意見ニ對シテ政友會ノ諸君ガ贊成ノ御意見ヲナスstatt云フコトハ、或ハ今日ニ
於テ政友會ノ諸君ノ御意見ガ私ハ變タカト考ヘルノデアル、ケレドモサウ云コトハナイト
思フ、而シテ私ハ此責任支出ノ承諾ヲ與ヘルカドウカト云フコトハデスナ、是ハ事
柄ノ内容ニ依ッテ極ルベキコトデアッデ、絕對的ニ憲法違反デアルト云フ一言ニ依ッテ抹
殺シ去ルベキモノデアナイト思フノデアリマス、而シテ私ハ米價調節トカ、ソレカラシテ蠶絲
業救済、臨時事件費、其他小サイモノハ幾ラモアリマスガ、ソレラノ事柄ガ果シテ憲法
違反デアルヤ否ヤト云フコトヲ一々論究シテ見タイノデアル、之ヲ論究スル前ニ私ハ國民
黨ノ御意見ニ對シテ一言意見ヲ述ベテ見タイト思フノデアル、國民黨ノ關サン
ノ意見ヲ承ルト云フト、豫備ト云フモノハ——豫備費ト云フモノハ是ハ豫算デ
ナイノデアル、豫備費ト云フモノハ實質上ノ豫算デアアル、實質上ノ豫算デアアルカラ、
此豫算費ト云フモノニ付テハ一錢一厘モ此豫備費以外ニ支出スルコトハ出來ナイト云
フ御論デアアル、私ハ憲法ノ條文カラ見マシテモ、不幸ニシテ豫備費ハ實質上ノ豫算デ
ハナイト云フ意見ヲ吐イデ見タイノデアル、諸君、豫備費ト云フモノハ實質上ノ豫算デナ
イ、ナゼ是ガ實質上ノ豫算デナイカト云フト、是ハ私ハ收支ノ適合スル上ニ於テ計算上
持ッテ來タノデアッデ、實質上ノ豫算デハナイ、何トナレバ實質上ノ豫算デアリト致シマス
レバ、是ハ議會ノ協賛ヲ經ナケレバナラヌノデアル、豫備費ト云モノハ議會ノ協賛ヲ經ル
モノデアナイ、然ルニ會計法ノ第七條デスカ見マスルト云フト、豫備費ト云フモノハ豫算
ニ掲グベキ豫備費云々トアルカラ、豫備費ハ一見豫算ノ中ニ這入ッテ居ルヤウニ見エルノ

アル、チヨット考ヘルトサウ云フ風ニ見エ、併ナガラ能ク考ヘテ見ルト云フト、豫備費ト云フモノハ決シテ實質上ノ豫算デアナイ、ナセ實質上ノ豫算デアナイカ、若シ實質上ノ豫算デアルトシタラバ議會ノ事後承諾ヲ經ルトハ何デア、再ビ手數ヲスルトハ何デア、是ハ吾輩ノ解スベカラザル第一デア——サウ云フ豫備費以外ノ支出ヲスルトハ憲法違反デアイト云フ議論ヲスルデア、ツレデ私ハ此豫備費ト云フモノガ——憲法第六十九條ニ豫備費ヲ設クベシト云フコトハ、豫備費ノ本質カラ見マシテ、豫備費ノ最大限度ヲ極メテ居ルモノデアハナイト云フ私ハ議論ヲシタノデア、豫備費ノ最大限度ヲ極メテ居ルモノデアハナイト云フコトヲ私ガ言フニ付キマシテハ、豫備費ハ最大限度ヲ極メテ居ルモノデアハナイト云フコトニ付テハ先ツ憲法ニ於テ豫算ト云フモノト、會計法ニ於テ豫算ト云フモノヲ區別スル必要ガアラウト私ハ思フ、憲法ニ於テ豫算ト云フモノハ憲法第十四條ニ於キマシテ、必ズ議會ノ協賛ヲ經ベキモノデア、然ルニ憲法ノ以外ニ於キマシテ——此豫備費ト云フモノガ實質上憲法違反デア、豫備費以外ノ支出ト云フモノハ憲法違反デアハナイト云フコトハ、私ハ此規定ガ最大限度ヲ極メテ居ルモノデア、是ハ全ク會計法ニ依ツテ——會計法ノ第二條ニ依リマスルト一切ノ收入ヲ歲入トシ、一切ノ經費ヲ歲出トスル、斯ウ云フコトニ書イテアル、此意味ニ於キマシテ私ハ豫備費ト云フモノハ一ツノ豫算デア、形式ノ豫算デア、實質上ノ豫算デアハナイト云フ私ハ意見ヲ有ッテ居ルデア、ツレナラバ何デ豫備費ト云フモノヲ三百萬圓ナラ三百萬圓ト極メマカト云フト、私ノ意見デハ之ヨリハツレハ一定ノ金額ヲ限ッテ豫備費ヲ掲ゲテ居ルト云フコトハ、是ハ唯其豫算ノ總歲入中ヨリ此支出ノ定メタル目的ノ何ヲ言フテ居ルノダト呼フ者アリ(總歲出ヲ差引キタル殘額ヲ示スト云フデケノコトデア、其定額——豫算ノ款項ノ定額トハ大ニ違ッテ居ルデア、豫算定額ニ書イテアル所ノモノト違ッテ居ルト云フコトハ、若シモ豫算ノ定額ニ書イテアルナラバ一方ニ協賛ヲ受ケタ範圍内外ノモノハ支出スルコトガ出來ナイ、併ナガラ其協賛ヲ經タモノデアナルカラシテ、私ハ議會ハ初メカラ之ニ協賛スルモノデア、從テ其一定ノ定額内ノ支出ヲ承認シナイト同時ニ、其以上ニ出タトコロガ是ハ決シテ憲法違反デアルト云フ議論ハ立チニクイ信ズルデア、而シテ豫備費ノ支出ト云フモノ、唯金額ガ切デアルト云フコトハ、收支適合ノ便宜上切デアルトデ、豫備費ノ支出ハ是ハ豫算ニ依ルモノデアハ考ヘルデア、若シ此議論ガ立チ得ルト致シマスナラバ、其事柄ノ緊急止ムヲ得ザルモノデアハ否ヤト云フコトニ依ッテ、私ハ憲法違反デアアルカナイト云フ斷定ヲシテ見タイト思フデア、所ガツレナラバ米價調節デアルトカ、或ハ蠶絲救済デアルトカ、其他ノ事件ハ果シテ避クベカラサル緊急ノモノデアカドウカト云フ問題ニナツテ來ルデア、此點ハ私ハ現内閣ガヤラレタコトハ全然成效デア、大成成效デアルト云フコトハ言ハナイ、同時ニ政友會諸君ノ言ハレヤウニ全然大失敗デアルトモ言ハナイデア、アノ時アノ場合ニ於テハ是デケノ支出ヲスルト云フコトハ、國利民福ヲ増進スル上ニ於テ私ハ止ムベカラザルコトデアタト思フデア、故ニ今日ノ立憲國ニ於ケル豫算ノ政府ヲ拘束スル效力ノアル所以ハ、唯議會ノ決議ヲ經ルト云フコトデア、議會ノ議決ヲ經タル豫算デアナレバ政府ヲ拘束スル效力ガナイ、然ラバ豫備金ハ形式上豫算ニ載ッテ居ルケレドモ、實質上ハ豫算デア、故ニ豫備費ノ以上ニ越ヘテモ其時ノ政府ガ緊急止ムヲ得ザル行爲

ト認定シテ、豫備費以外ノ支出ヲシテ決シテ憲法違反ナラナイト云フ議論ヲ有ッテ居ルデア、先刻關サンガ臨時軍事費ト云フモノハ憲法第七十條ニ依ルベキモノデアルト云フ御意見ガアツタデア、私モ此臨時軍事費ノ如キハ出來得ベクンバ憲法第七十條ニ依ル方ガ宜イ、併ナガラ憲法第七十條ニ依ルニアラズンバ違憲デアルト云フ説デハナイデア、憲法第七十條ニ依ラナイデモ日清戰爭ノ如キ北清事變ノ際ノ如キ、政府ガ餘剩金ヲ以テ支出シテモ決シテ違憲ノ支出デアルト云フ結論ハ下ラヌデア、故ニ私ハ斯ノ如キ理由ニ依リマシテ、政府ガ臨時軍事費米價調節其他ノ支出ヲシタト云フコトハ、決シテ憲法違反デアハナイ、私ハ斯ウ言ッタカラト云ッテ剩餘金ヲ無暗ニ支出シテモ差支ナイト云フ議論ヲスルデアハナイト(駄目ダト呼フ者アリ)元ヨリ今日國家ノ豫算ト云フモノハ原則トシテ議會ノ協賛ヲ經ナケレバナラヌモノデア、責任支出ハ剩餘金ノ支出モ責任デア、豫備金ノ支出モ責任デア、責任支出デアカラ議會ノ承諾ヲ經ルデアハナイカ、果シテ然ラバ豫備金ノ支出剩餘金ノ支出、共ニ責任支出デアルト言ッテ差支ナイ、然ラバ其責任ヲ解除スル如何ト云フコトハ、果シテ緊急止ムヲ得ザル必要デアカドウカト云フコトニ依ッテ區別スルデア、此區別ハ私ハ現内閣ノヤツコトハ絶體的二贊成ハセマケレドモ、諸君ノ言ハレヤウニ全然失敗ニ歸シタト云フコトハ言ハナイデア、果シテ然ラバ私ハ此剩餘金支出ト云フコトハ、ツレハ政友會諸君ノ言ハレル如ク是ハ憲法ノ正道デアハナイ、權道デアカラシテ、政府ニ於テモ大ニ愼ンデ貫ハナケレバ困ルデア、此點ハ私ハ剩餘金支出ツレ自身ハ決シテ憲法違反デアルト云フコトハ言ハナイ、憲法違反ヲ以テ目スルニ付テハ其支出ガ緊急止ムヲ得ザルモノデアカ否ヤト云フコトニ歸スルデア(分ラヌト呼フ者アリ)私ハ此點ニ付テハ政府ノ剩餘金支出ト云フモノハ、緊急止ムヲ得ザルモノデアタト考ヘルデアカラシテ、此事後承諾ハ與ベキモノト考ヘルデア、所ガ茲ニ考ヘニヤナラヌコトハ、ナセ斯ウ澤山ニ剩餘金支出ガ出來ルカ、此點ニ付テハ私ハ現内閣ニ一ノ希望ガアル、ツレハドウ云フ希望ガアルカト云フト、ナセ剩餘金支出ガ澤山出來ルカト云フコトハ幾多ノ原因モゴザイマセウ、併シ私ノ考ヘル所デハ歲入ヲ餘リ過少ニ見積リハシナイカ、ツレハ獨リ現内閣トハ言ハナイ、歷代ノ内閣ガ歲入ヲ過少ニ見積ルト云フコトハ是ガ一ノ原因デアハナイカト考ヘルデア、故ニ私ハ先刻中正會ノ田川君ノ御希望モアリマシタガ、豫算編製ノ際ハ成タケ歲入ヲ過少ニ見積ルト云フ弊ハ一ツ廢メテ貫ヒタイ、而シテ剩餘金支出ト云フヤウナ論ノアルコトハ、先ツ憲法上カラ云フト私ハ先刻申シタヤウナ意見デアアルケレドモ、併ナガラ斯ウ云フ金ヲ澤山拵ヘルト云フコトハ政治家ノ大ニ愼ムベキコトデアラウト考ヘマスカ、將來ハ政府ハ大ニ此點ニ付テ注意ヲセザレバ豫備金ヲ増加スルト云フコトデア、其他ノ法令ヲ改廢スルト云フコトガ必要デア、若クハ憲法ノ改正ハ、天皇ノ大權デアアルケレドモ、輔弼ノ責ニアル國務大臣ニ於テ、四圍ノ事情ヲ考察シテ是ガ必要デアルト若シ御考ヘガアル場合ニ於テハ、相當ノ處置ヲ講ゼラレンコトヲ私ハ希望スルデア、私ハ以上申述ベタコトニ依ッテ此案ハ承諾スベシト云フ意見ヲ持ッテ居ルデア(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 古谷久綱君

(古谷久綱君登壇)

(拍手起ル)

○古谷久綱君 諸君、本員ハ箕浦委員長ノ御報告ニ相成リマシタル國庫剩餘金支出ノ事後承諾ニ關シマシテ、一部反對ノ意見ヲ持ツテ居リマスルガ故ニ、暫ク諸君ノ御清聴ヲ煩ハシタイト存ズルデアリマス、此剩餘金支出ノコトガ此項世上ニ露クナリマシテ、又議會ヲ吾々ガ之ニ付テイロノ議論ヲ圖ハスコトナリマシタノハ、畢竟致シマスルニ、大隈内閣成立以來僅ニ一年一箇月ノ間ニ六千六百萬圓ト云フ大キナ剩餘金ヲ使ハレタノガ、即チ其原因デゴザイマスル(ノウ)「前内閣時代ノモノモアリマスヨ」ト呼フ者アリ此六千六百萬圓ハ大隈内閣ノ時ノモノダケ、而シテ政府ノ之ヲ支出セラレタコトヲ支出ノ目的ト申シマスルモノモ、唯今マデトハ大ニ其趣ヲ異ニ致シテ居ルデアリマス、ソレデ此儘ニシテ放任ヲ致シ置キマシタナラバ、所謂國庫剩餘金ノアル限リハイロノナル名實ヲ附ケラレテ、サウシテ之ヲ仕拂ハル、ニ至レバ議會ノ監督權モ有名無實トナリ、又延イテハ財政ノ基礎ヲ危クシハセヌカト云フコトヲ皆ナ恐レルカラデアリマス(御心配ニ及バヌ)ト呼フ者アリ是ハ決シテ無理カラヌコトデアルト思ヒマス、何故ナレバ事實ハ斯ノ如クデアリマス、從來剩餘金支出ト云フモノハ勿論ゴザイマシタガ、其歴史ヲ見マス今迄ノ中ニ二年度程ノ間ハ一文ノ剩餘金支出ノコトハ無カッタデアリマス、ソレカラ又少ナイ時ハ十九萬幾ラデアリマス、多イ時デモ百十萬圓ヲ超エタコトハナイデアリマス、然ルニ此度ハ唯今述ベマシタ如ク一年一箇月ノ間ニ六千六百萬圓ト云フ大支出ガアッタコトヲ見マスレバ、決シテ是ハ杞憂デハナイデアリマス、内閣諸公ノ中ニハ剩餘金ノ支出ト云フモノハ一錢一厘ノ微ト雖モ憲法違反デアルカラ、是ハ承諾スルコトガ出來ナイト云ウテ、數十年間此壇上ニ於テ侃々諤々トシテ唱ヘ來ッタ諸君デアリマス、又政府與黨ニモ私ノ尊敬スル名士ノ中ニ「伊藤公公地下ニ泣イテ居ル」ト呼フ者アリ之ヲ唱ヘテ御議論ニナッタ方ガ幾ラモアルデアリマス、故ニ其諸公ガ組織ヲ爲サタトコロノ内閣ガ、斯ノ如キ多額ノ剩餘金ノ支出ガアルニ付テハ、諸公ノ見解ハ果シテ如何ナモノデアルカト云フコトハ私ハ非常ニ興味ヲ持ツテ居ッタ所デアリマス、而シテ大藏大臣ノ此處デ御説明爲サルコトヲ承リマスレバ、徹頭徹尾吾々所謂政友會ノ者ノ持ツテ居ル考ト同シ考デ、其前例ニ從ツテ之ヲ支出シタルデアアル、全然君方同シ考デアル、而シテ之ヲ承諾ヲ求ムル形式モ六十四條ノ二項ト云フモノハ穩當デハナイカモ知レヌガ、今迄ノ前例モアルコトデアリマスカラ是ヲモ前例ニ從ツテ、而シテ支出シタルト斯ウ仰シタルデアアル、果シテ左様デアラバ私共ノ之ニ對スル見解ハ今友黨ノ關直彦君ガ此處デ讀ムマシタ通りデアリマス、守屋君ノ仰シタルトハ違ツテ居リマス、私ハ重ネテ時間ヲ取ルコトヲ恐レマスガ故ニ、重ネテハ申シマセヌガ、守屋君ノ仰シタルトハマルデ違ツテ居ルト云フコトヲ明言ヲ致シ置クデアリマス、デ斯様ニ吾々ノ持ツテ居リマス見解ト政府ノ持ツテ居リマスルコトコトガ同ジクナルナラバ、所謂此内容ヲ精査致シマシテ、之ニ承諾ヲ與フベキモノト與フベカラザルモノヲ極メテ外ハナイデアリマス、就キマシテハ吾々ハ其内容ニ立到シテ見マス、私ノ考ヘルトコロデハ總計六千六百萬圓ノ中デ、唯今迄ニ吾々ノ考カラ之ニ承諾ヲ與ヘベキモノト考ヘマスモノハ恰度千七百四十萬圓程デアリマス、而シテ約四千八百六十萬圓ト云フモノハ責任支出トシテ承諾ヲ與ヘベキモノニア

ラズト本員ハ考ヘルデアリマス(拍手起ル)唯今カラ暫ク一々其理由ヲ申上ゲテ見タイト思フデアリマス(簡單々々)ト呼フ者アリ第一ハ陸海軍所管ノ軍事費デアリマス、ソレカラ各省所管ノ大正三年臨時事件費、此二ツヲ合セマス、丁度四千十萬圓バカリニナリマス、ソレカラ第二ハ内務省所管ノ東京市外九市ノ水道費補助デアリマス、是ガ十萬圓、ソレカラ四日市外三港ノ港灣修築ノ補助費是ガ二十萬五千圓、雙方合セマシテ内務省所管ガ三十三萬五千圓ニナリマス、ソレカラ第三ハ大藏省所管ニ於テ米價調節費ノ三百十六萬六千二百九圓、第四ハ農商務省所管ニ於テ帝國蠶絲株式會社助成金五百萬圓、之レヲ合セマス、ト四十八萬六千六百六十二圓ニナルデアリマス、先ヅ第一ノ軍事費事件費ノコトデアリマス、此處デ一言申上ゲテ置キタイノハ同ジク大正三年臨時事件費ト稱シテゴザイマスケレドモ、大正三年度ノ臨時事件費ノ大部分ト大正四年度ノ臨時事件費ト云フモノハ、私ガ申上ケルマデモナク、全ク違ツタモノデアリマス、大正三年度ノ一部分ハ直接膠州灣ノ戰爭ニ關係致シマシタ費用デアリマス、大正四年度ノ全部ト及ビ大正三年度ノ中ノ八十九萬圓ヲ合セマシテ千三百四十二萬圓ト申シマスモノハ、是ハ某國ニ對シテ我政府ガ軍需品ノ請負ヲ致シマシタ其代金デゴザイマス、故ニ全然之ヲ一ツノモノトシテ論斷シナケレバナラヌト思フデアリマス、先ヅ第一純粹ノ軍事費及事件費ヨリ申シマスレバ、其高ガ恰度二千六百六十八萬圓デゴザイマス、此金額ハ本員共ノ所見デハ之ヲ憲法第七十條ニ依ツテ、財政上ノ緊急處分トシテ支出シナケレバナラヌモノト考ヘルデアリマス(拍手起ル)此點ニ關シ或論者ハ申シマスルニ、憲法七十條ハ財源ヲ作ル爲ノ規定デアル、所謂責任支出ヤ何カトシテ國庫剩餘金ヲ支出スルニ適應スベキモノデアリト、斯ウ云フ御議論ヲ私共聞キマスガ、是ハ餘リ狹ク此七十條ヲ御解釋ニナッタコトデアルト思フデアアル、現ニ此處ニ御出デニナル若槻大藏大臣ハ事後承諾ノ委員會ニ於テ、憲法七十條ニ依ツテ支出セラレタモノデアリトアルケレドモ、至急ヲ要スル場合ト先例ガアッタカラ之ニ依ツテ責任支出ヲシタルデアルト明言セラレテ居リマス(ソレデ宜イザヤナイカ)ト呼フ者アリ左様デアリマスルガ故ニ、此憲法七十條ヲ狹義ニ解釋シテ唯財源ヲ作ル爲メノ規定デアルト云フ愚論ハ、是ハ私ハ取ルニ足ラヌト思フデアリカラ、果シテ至急ヲ要スル場合——今度ノ支出ハ果シテ至急ヲ要シタルデアルガ、而シテ此前例ハ善キ前例デアアルカ、惡シキ前例デアアルカト云フコトヲ明ニ申上ゲテ置カケレバナリマセヌ、(政友會ノヤツタ時ハドウダ)伊藤内閣ノヤツタ時ハドウダト呼フ者アリ所謂此如何ナルコトニ依ツテ急ヲ要シテ、當リ前ノ憲法七十條ノ正道ヲ執ルコトガ出來ナカッタカト云ヘバ、手續ヲスル暇ガナカッタト云フ御話デアリマスケレドモ、是ハ素人ニハ言フコトガ出來ルカ知レヌケレドモ、吾々ニハ言フコトガ出來ナイデアリマス(拍手起ル)何故ナラバ責任支出ニハドレダケノコトヲ要スルカト云フニ……(素人トハ何ダ)ト呼フ者アリ所謂責任(素人トハ何ダ取消セ)ト呼フ者アリ

○議長(島田三郎君) 靜肅ニ……

○古谷久綱君 諸君ハ悉ク素人デアリマセヌ——何故ナラバ責任支出ト云フモノヲスルニハ、内閣閣議ト勅裁トガ要ルデアリマス、而シテ憲法七十條ハ之ニ加フルニ樞密院ノ會議ガ今一ツ要ルダケノ話デアリマス(ソナンコトハ誰デモ知ツテ居ル)ト呼フ者アリ

リ)國交上是非必要ナコトデアラナラハ樞密院ノ會議ハ夜ノ夜中モ開ケルデアリマ
ス、(黑人ノ議論ダヨ)ト呼フ者アリ)ソレカラ今一ツノ是ハ前例ノ議論デアリマスガ、前
例ノコトハ是ハ成程調ベテ見マスルト云フト、日清戦争ノ時ニ——伊藤内閣ニ成程二
十七年度ニ於テ五十七萬圓、二十八年度ニ於テ一萬四千圓、成程朝鮮事件費トシ
テ五十九萬三千圓ハカリヲ出シテ居ルコトノ事實ガアリマス、ソレカラ又桂内閣ノ時ニナ
リマシテ、日露戦争ノ時ニ約千萬圓程ノ責任支出ヲシテ居ル事實ガゴザイマス、是ハ
明カナル事實デゴザイマスガ、是ハ決シテ結構ナ前例デアリマセヌ、頗ル憲法上カラ言ヘバ
惡シキ前例デアリマス、全然惡シキ前例デアルト私ハ考ヘル、現内閣ノ諸公ノ如キ責任
支出ヲ憲法違反ナリト云フテ、二十餘年來闕來タル諸公ガ此權力ヲ得ラレテ、内閣ヲ
組織セラレタ以上ハ、是非正道ニ御據リニナラケレバナラヌト私ハ思フ、伊藤公ガ
遺シタ惡例ヤ、桂公ノ遺シタ惡例ニ堂々タル大隈伯ガ御頼リニナルコトハ決シテナイノ
デアリマス、(拍手起ル)(伊藤サンニ叱ラレル)ト呼フ者アリ)左様ナ次第デアリマスガ
故ニ、私ハ是ハ憲法七十條ニ據ルノ正道ト認メテ責任支出トシテハ不承諾ヲ致シタ
イノデアリマス、第二ハ此某國ノ軍需品請負ノ一千二百四十二萬圓ト申シマスモノ
デアリマスガ、是ハ全ク大正三年臨時事件費ナル美名ノ下ニ、違ツタ事柄ヲシテ居ルノ
デアリマス、所謂極言スレバ羊頭ヲ懸ケテ狗肉ヲ賣ッテ居ルノデアリマス、(拍手起ル)是ハ
唯今モ守屋君ノ御話ニナリマシタ通り、某國ノ爲ニ靴ト羅紗トヲ請負フテ造ッテ居ル
デアリマスガ、此事ニ付テモ私共ノ承リマス所ニ依リマスルト、政府委員ノ說ハ二ツニ岐
レテ居ルノデアリマス、第一ノ御答ハドウ言ハレルカト云ヘバ、是ハ某國政府ノ餘儀ナキ
懇望ニ依ッテ其協同ノ——敵ヲ同ジウシテ居ル國交上ノ關係カラ已ム得ズ之ヲ引受
ケタト、或政府委員ハ言ハレルノデアリマス、又他ノ政府委員ノ言ハレマスルニハ是ハ此
註文ニ應ズレバ我商工業ノ發達ヲ圖ルコトガ出來ルシ、之ニ應ゼザレバ此注文ハ他ノ國
ヘ取ラレテシマフカラ、我ヨリ進シテ之ヲ受ケタト云フコトデアリマス、(宜イデヤナイカ)ト
呼フ者アリ)ソレガ違ッテ居ル、其理由ノ何レニ在ルニ致シマス所デ、是ハ責任支出ヲ
マデ爲シテ引受クベキモノデアナイト私ハ思ヒマス、(拍手起ル)(君ハ靴屋ニハ黑人ダネ)ト
呼フ者アリ)如何トナレバ若シ某國ノ餘儀ナキ懇望デゴザイマシタナラバ、是ハ相當ノ
條件ヲ以テ此方カラ十分出スコトガ出來ルノデアッテ、憲法上最モ忌ムベキ責任支出マ
ハシテ、之ヲシナケレバナラヌト云フコトハ私ハナイト思フ、何故ナレバ此一方ニ於キマシテ
ハ我商工業ヲ若シ獎勵スルト云フ目的デアリマスレバ、我國ノ政府トシテハ爲スベキコト
ハマダ極ク澤山アルト私ハ思フノデアリマス、御承知ノ通り減債基金法ヲ改正シテサウシ
テ内外ノ事情モ構ハズ、公債償還ノ額サヘ減シテ、二千萬圓ヲ鐵道ニ廻ハスガ如キ實
際ノ有様デアナイノデアリマス、若シ左様ナコトデアレバ私ハ是ハ贅澤ト言ハナケレバナ
ラヌデアリマス、(ノウノ)ト呼フ者アリ)政府ガ自ラ之ヲ責任支出ヲシテ引受ケナクテモ、
某國ニハ東京ニ大使館モアリ、派遣員モアリマス、相當ノ紹介ト監督ヲ政府ガ爲セバ
確ニ其目的ヲ達スルコトガ出來ルノデアリマス、加之此ニ至ッテ私ハ之ヲ調ベマシタ時ニ
實ニ驚イタノデアアル、何故驚イタカト申シマスレバ、本員ガ先日此議院ニ於キマシテ政府
ニ質問ヲ致シマシタ、今度ノ此契約ガ豫算外國庫ノ負擔ニナルノ契約ヲ爲シタノデアハ
イカト申シマシタガ、ソレハ政府ハシテ居ラヌト云フコトデアアル、シテ居ラヌト云フカラ調ベ

テ見マス成程シテ居ラナイ譯デアアル、即チ此二月十七日——二月二八日デカラ此契約
ヲ致シタノデアリマスガ、大正三年度ト云フモノハ三月二十八日デ品物ヲ納メマスル迄
デ、所謂前年度ノ分ハ二月分デケテ契約ヲシテ、サウシテ今度四年度ヘ入ッテ四月一
日以後ニ又契約ヲシテ、二ツニ契約ヲ分ケテ居ルデアアル、成程是ナラハ豫算外國庫ノ
負擔トナル契約デアハナカッタカ知ラヌガ、併シ第二次契約ノ四月ニナッテ決定致シマ
シタ契約ニ依ッテ見マス、此品物ヲ陸軍ヘ納メマス一番シマヒノ期間ハ何時カト云
ヘバ、今年ノ十月ノ二十八日デアリマス、十月二十八日ニ契約ノ實行ヲセラル、所ノモ
デアリマス、而シテ諸君、四月二八日デカラ一箇月半スレバ帝國議會ハ開ケタデアリ
マセヌカ、一箇月半——五月以降ト云フモノハ帝國議會ヲ開イテ、若シソレガ國交上
是非必要デアアル、商工業上必要デアラナラバ、何故堂々トシテ追加豫算ヲ組ンデ吾
ノ協賛ヲ經ナイノデアアルカ、ソレヲセズシテヤッタノハ、私共ハカリデナイ、諸君モ共ニ吾
ノ此財政監督權ヲ無視サレテ居ルノデアリマス、(ノウノ)ト呼フ者アリ)ソレカラ其次ニ
ハ水道費補助、ソレカラ港灣修築費ノ補助デアリマス、是モ誠ニ惡例ヲ貽スモノデア
ルト私ハ思フノデアリマス、何故ナラバ政府委員ニ聞キマシテモ、斯ノ如キコトハ未ダ曾テ
イノデアリマス、所謂言葉ヲ強クシテ言ヘバ未曾有ノコトデアリマス、今度始メテ是ガ一
ノ先例ガ貽ルノデアリマス、ソレハ豫算外國庫ノ契約ヲ爲スノ件ヲ官報デ公布シテ、其
次ノ年ニ契約ヲスル時ニ豫算ガ無カッタ、豫算ガ無イ時ニ責任支出ヲシテ其契約ヲ結ビ、
サウシテ補助ヲ與フルト云フコトハ唯今マデハナカッタノデアリマス、此度始メテ諸君ガ此
處デ承諾ヲ與ヘルカ與ヘナイカト云フノデ、是ガ將來ニ先例ガ貽ルノデアリマス、私ハ内
務省ノ從來ノ契約ノ書式ヲ見テ居リマスルノニ、從來何時デモ契約ヲ地方ノ府縣ト致
シマスル時ニ於テハ、若シ豫算ガ通過シナカッタ場合ニハ内務省ハ之ヲスル義務ガナイ
ト云フ一項ヲ附加ヘテ、慎重ニ契約ヲシテアリマシタ、然ルニ此度之ヲ發布シテ——サウ
シテ契約スル件ヲ發布シマシタノハ昨年三月ノ二十七日デアリマス、而シテ之ヲ一年ノ
間放タラカシテ、サウシテ殊ニ三月二十日總選舉ノ五日前ニ此契約ヲ結バレテ、而シテ
是ヲ仕拂ニナッタルデアリマス(加賀卯之吉君)ソレハ地方ノ事情ヲ御知リニナラヌカラ
ス)ト呼フ)成程私ノ承ルトコロニ依リマスルト、四日市市ノ如キハ樂港ガ實際出來カカ
居ルト云フコトデアリマス、(其通り)ト呼フ者アリ)ソレカラ他ノ都市ハマダ出來テ居
ヌ處モアル、著手シナイ處モアル、水道ノ如キ東京外九市即チ十市ニ一萬圓宛十萬圓
デゴザイマスガ、是等ハ初メテ今マデ何等ノ例ノナイ所ヲ破ッテ、而シテ惡例ヲ將來ニ貽
シテ宜イモノデアアルカ、惡ルイモノデアアルカト云フコトハ一言ニシテ分ルコトデア
アル、諸君、伊藤公ノ殘サレタ五十九萬九千幾ラノ惡例ハ桂公ニ至ッテ千萬圓ト云フ額ニナリ、大
隈伯ニナッテ四千萬圓ニナッテ、斯ノ如キコトヲ今日貽シテ行キマシタナラバ、他日數千
何百萬圓ノ剩餘金ヲ支出致シマシテモ、諸君ハ一言モ言フコトハ出來マセヌデアリ
マス、(ソシナ場合デナイ)内閣ノ責任ヲ問ヒマス)其他發言スル者多シ)ソレカラ第三
番目ハ米價調節問題、是ハ金高ガ丁度三百十六萬幾ラト云フモノニナリマスルガ、其
米價調節ト申スモノモ、是ハ其目的ニ至リマシテハ何人モ異存ノナイコトデアリマス、御
承知ノ通り本員等モ同志ト共ニ夙ニ前期議會ニ於キマシテ之ニ關シテ建議モシ、法律
案ニモシテ政府ニ追ッタルデアリマス、ダカラ其目的ニ至ッテハ何等異存ハゴザイマセヌ、其

點ハ明カニ御了承ヲ願ヒマス(「反對ハ出來ヌマイ」ト呼フ者アリ)即チ其政府ノヤラレ
タ手段方法ニ至テハ、私共頗ル異存ガアルノデアリマス(「ソレハアナタ方ガ分ラヌデ
ス」ト呼フ者アリ)之ヲ譬ヘテ申シマスレバ茲ニ一人ノ病人ガアルノデ、之ニ藥ヲヤルト云
フコトハ誰モ異論ハナイ、ソマリヤッタ藥ガ名醫カ凡醫カ分リマセヌガ、免モ角大隈内閣
ト云フ醫者ノヤリマシタ藥ガ善カタカ惡カタカ、其處方ガ善カタカ惡カタカト云フ問
題デアル(「政友會ガヤッタ宜カラウ」ト呼フ者アリ)善惡ノ議論ニ至ッテハ私ガ善惡ノ
議論ヲ彼此言フヨリハ、先日ノ豫算總會ニ於ケル我同志ノ山本悌二郎君ガ大藏大臣
ニ對シテ數度ノ質問ニ於テ、大藏大臣ノ御答辯ニ依ッテ見レバ確カニ明瞭ニ分ッテ居
ルデアリマス、大藏大臣ハ終ニ是ハ失敗ナリト言ハザルヲ得ザル羽目ニ至ッタデアリマス
(「拍手起ル發言者多シ」)即チ大藏大臣ナル御醫者サンハ匙ヲ御投ゲニナッタ(「ノウ
ノウ」ト呼フ者アリ)其證據ニハ將來此方法デハヤラス、此方法デハヤラスト云フコトヲ
明言セラレタ(「拍手起ル」)ヤラヌト明言セラレタ以上ハ、其效果ガ無カタカラヤラヌト言
ハレルノデアルト私ハ信ズル(「ノウノウ」事實ヲ證明シマセウ)ト呼フ者アリ)「畢竟スルニ
此米價調節ナルモノハ私ガ精シク申スマデモナク(「言ヘナイデセウ」)「知ラヌノデセウ」ト
呼フ者アリ)時機ヲ失シ、而シテ其方法ヲ誤リタルモノデアル(此時發言スル者多シ)

○議長(島田三郎君) 加賀君ニ御注意致シマス

○加賀卯之吉君 ハイ、ハイ心得マシタ

○古谷久綱君 其方法ヲ誤リ而シテ終ニ是ハ失敗ニ終ッテシマッタデアリマス、終ニ失
敗ニ終リマシタト致シマスレバ、之ヲ否認スルヨリ仕方ガナイデアリマス(此時發言者多シ)
或論者ハ目的ガ宜シヤラ承認スルト仰シヤルカモ知レヌガ、ソレハ豫算ヲ議スル時ナラ
結構デアリマセウ、事後ニ至ッテ承認ヲ與ヘルヤ否ヤト云フコトニ至ッテハ、第一ニ判斷ニ
ナルベキコトコロモノハ、即チ此事ガ成功シタヤ否ヤト云フコトガ一番ノ論デアリマス(「成
功シテ居リマス」ト呼フ者アリ)明カニ是ガ成功シタモノデゴザイマスルナラバ、不肖ナル私
モ兩方ヲ擧ゲテ承認スルノデアリマスガ、如何セン、成功セザルモノニ向ッテハ飽マデ否認
ヲ主張セザルヲ得ヌデアリマス、(「眼鏡ガ違フ」モウ止メ給ヘ「マダヤルカ」其他發言ス
ル者多シ)第四ハ(「マダヤルカ」ト呼フ者アリ)蠶絲會社助成金五百萬圓デゴザイマス
ルガ、是モ私モ同様ノ見地ヨリ(發言者多シ)反對ヲ致スノデアリマス、即チ不承認ヲ稱
ヘルノデアリマス、此事ニ付キマシテハ精シク申述ベル必要ハアリマセヌ(「サウダラウ言ヘナ
イダラウ」ト呼フ者アリ)即チ此民間ニ於テ之ヲ非常ニ絶叫致シマシタ時ニ、最初政府
當局者ハ之ニ耳ヲ假サレナカッタデアリマス、是ハ明カナル事實デアリマス(「嘘デス」ト呼
フ者アリ)而シテ吾々ガ之ヲ建議シ之ニ關スル法案ヲ出シマシタカラ後ニ政府ハ成程解
散ノ前日ニ法案ヲ御出シニナリマシタ、併ナガラ解散見込ノ法案ヲ御出シニナリマシタ、
而シテソレカラ後ニ如何ナルコトガアッタカト申シマスレバ、様々ノコトガアッテ(此時發言
者多シ)樞密院ヘ以テ行ッテ様々ノ方法……(「樞密院ヲ流會サレタノハ……」喧騒ノタ
メ聴取シ能ハズ)

○議長(島田三郎君) 戸井君ニ注意致シマス——不規則ナ發言ヲ止メマス

○古谷久綱君 終ニ様々ノ結果三月ニ這入ッテ、此五百萬圓ノ助成金ナルモノガ出
テ、而シテ實際ヤッタコロノモノガドウカト申シスルノニ、政府ノ人ハ目的ヲ達シタト仰シ

ヤルケレドモ、アノ絲ノ値段ガ二月以後下ラナカッタノハ、今マデノ年々ノ統計ニ依ッテ分ル
ノデアッテ、米國市場ノ是ハ影響デアリマス、決シテ救濟會社ノオ蔭デモ何デモゴザイマ
セヌ、何トナレバ論ヨリ證據、僅カニ八十萬圓シカ買ッテハ居ラヌデハ、ゴザイマセヌカ、此
ニ於テ長イ議論ヲ彼是致ス必要ハゴザイマセヌガ、タッタ一言致シマス、若シ是ガ成功シ
タモノナレバ何故此處御止メニナリマス、タッタ二箇月ノ間ヤッタバカリ何故之ヲ止メ
ルノデス、何故歐羅巴ノ動亂ノ終ヒマデ之ヲ有効ニ繼續ナサライノデアアル、忽チニシテ
始メテ忽チニシテ止メテシマッタノハ、朝令暮改殆ド不眞面目千萬ナル施設ト云ッテ宜シ、
斯ノ如キ不眞面目千萬ナル施設ニ對シテハ承諾スルコトハ出來ナイノデアリマス(「君ニハ
分ラヌ其他發言者多シ」)之ヲ要スルニ私ノ修正案ノ通りニ致シマス、第九議會以來
衆議院ノ意見ト政府ノ意見ト此一致點ヲ見出スノニハ丁度ニ合フノデアアル、ソレカラ
又斯ノ如ク致シマスレバ政府與黨諸君ニ於テモ、唯今マデ衆議院、此院議ニ依ッテ
御認メニナリマシタノト同ジコトニ相成リマス、ドウカ私ハ委員會ニ於テ我同僚ナル與黨
委員諸君ガ、此六千六百萬圓ヲ御吞込ミニナルノニ四苦八苦シテ居ラレルトコロヲ見
テ實ニ同情ニ堪ヘマセヌ、願クハ私ノ說ニ御賛成アラムコトヲ望ミマス

○議長(島田三郎君) 田川大吉郎君

○田川大吉郎君 諸君、私モ本問題ニ一言ヲ試シマスガ、最早多言ノ必要ハナイト
思ヒマス(「必要ナシ」ト呼フ者アリ)中正會同志ノ信ズル所ヲ簡明ニ此場合主張致シテ
置キマス、中正會ノ本問題ニ對スル申合ハ、先程其要領ノ一端ヲ述ベテ置キマシタガ、
第一ニ政府ガ從來ノ慣例ヲ逐テ、剩餘金支出ノ途ヲ此場合ニ取リマシタルコトヲ深ク
遺憾トスルモノデアリマス、此遺憾ノ情ニ堪ヘザル次第ヲ、重ネテ之ヲ聲明シテ置ク必要
ヲ感ジマス、但シ今回ノ剩餘金支出ハ其實質上現内閣ノ立テル境遇上已ムヲ得ザル
ノ必要ニ出デタルコトヲ認メマス(「ヒヤ」ト拍手起ル)サリナガラ憲法第六十四條第
二項ノ剩餘金支出ノ場合ヲ含ムトスル從來ノ解釋ハ、私等ノ見解ニ於テハ斷ジテ不當
デアリマス、(「ソレデヤカラ違憲デヤナイカ」ト呼フ者アリ)故ニ政府ガ剩餘金支出ニ對ス
ル疑義ヲ解決スル爲メ、法令ノ改正若クハ其他適當ノ計畫ヲ企テントラ要求スルノガ
私等ノ主張デアリマス、私等ハ是ヲ今後ニ尙要求スル者デアリマス、從來ノ此場合ノ憲
法ノ解釋ニ對シテハ、蓋シ一說アッタト信ジテ居ル、其一ハ憲法第六十四條第二項ノ
場合ヲ廣義ニ解釋スルノデアリマス、第六十九條ニ規定セラレタル豫備費ノ以外ニ、第
六十四條第二項ノ豫算外ノ支出ナルモノ、意味ハ擴ガッテ居レル豫備費ノデアリマス、
此見解ハ此處ニ居ラレル若槻君モ嘗テ議會ニ於テ之ヲ主張セラレタコトガアル、長島君
ガ此處ニ御出デアリマスガ、桂公ハ總理大臣トシテ若槻君ノ此見解ニ裏書セラレタコ
トガアル、モウ一ツノ解釋ハ、政友會ノ諸君ガ近年唱ヘ來ラレタ解釋デアアル、是ハ責任
友出ヲ以テ憲法ノ條章ニ依ラザル支出ト云フノデアリマス、私等ハ第六十四條第二項
ヲ廣義ニ解釋スルコトニモ不同意デアアル、更ニ政友會ノ諸君ガ責任支出ヲ以テ憲法ノ條
章ニ據ラザル支出ト稱セラル、ハ更ニ不同意デアアル(然ラバ現内閣ニ反對シ給ヘ)ト呼

其他發言スル者多シ

○議長(島田三郎君) 田川大吉郎君

フ者アリ) 私等ハ若シ此二ツノ説ノ孰レカ採ラナケレバナラヌトスルナラバ、寧ろ第六十八
四條ノ第二項ヲ廣義ニ解釋スルノヲ稍、穩當ナリトスルノ説ニ立チタイ(曖昧ダ)ト呼
フ者アリ) 併ナガラ私等ノ本來ノ主張ハ、此二ツノ解釋ニ總テ不同意デアル、寧ろ此二
ツノ解釋ノ起ル以前ノ當初ノ議會ノ解釋ニ立戻リタイ(ツレヤ反對デヤナイカ)ト呼
フ者アリ)之ヲ違憲ナリト解釋スル場合ニ立戻リタイ、是ガ今日ニ於テノ主張デアリマス、
之ニ對シテ閣下君ハ——閣下君ハ此事後承諾案ニ不承諾ヲ與ヘレバ、則チ其見解ニ到達
スルデハナイカト、斯ウ云フ御論告デアラ、ツレモ一説デアルト思フ(贊成シ給ヘ)ト呼
フ者アリ)又私等ハ屢々從來サウ云フ立場ヲ迫ッテ參リマシタ、同時ニ是ハ二十年間稍
定ツタ典例デアルトシテノ議論ニモ相當ノ根據ヲ認ムル(笑聲起ル)國務ノ運用ニ方ッテ
緊急已ムベカラザルノ必要ヲ感ジテ之ヲ支出シタ爲ニ、國務ノ曠廢ヲ免レタスル其政
友會諸君ノ取リ來ラレテ、今日同志會諸君ノ取ラレ見解ニモ相當ノ根據アリト認
ムル(左支右吾スルハ遂ニ如何)ト呼フ者アリ)故ニ憲法ニ於ケル純理ノ解釋ト國務ノ運
用上ニ於ケル實際ノ必要ト此調和ヲ、此大隈内閣ニ迫ルノデアリマス、是ガ私等ノ立
場デアリマス、今日ハ其必要ナル時期ダト思フテ居ルノデアリマス(此間頗ラドウスルカ)
ト呼フ者アリ)此問題ニ對シテハ既ニ中正會ノ最初ノ申合ヲ聲明シタ時ニ、今回ノ剩
餘金ノ支出ハ實質上已ム得ザルノ必要ニ出タルモノナリト認ムト云フコトニ於テ承
認ノ意見デアリマス(笑聲起ル)ツコデ私ハ先程ノ長島君ノ御忠告ニ答ヘル(餘計ナコ
トヲ言ハナイデモ宜イデヤナイカ)ト呼フ者アリ)長島君ハ私等ニ同意見デアル、又同ジ
境遇ニ在ラレハ、斯様ニ私ハ申スノデアアル、長島君ハ今日ニ於テ違憲ノ議論ヲ懷カレテ
居ラル、ノミナラズ、數年以前ニ於テ必ズ違憲ノ考ヘラ懷イテ居ラレタデアラウト信ズ
ル其長島君ガ桂公ニ接近シテ立タレタル機會ニ於テ、二十七年ニ於テハ一千一百万圓
ノ剩餘金支出ガアッタ、三十八年ニ於テハ三千六百万圓ノ剩餘金支出ガアッタ、四十
二年ニ於テモ一千三十七万圓ノ剩餘金支出ガアッタ、其等ノ場合ニ長島君ハ必ズ違
憲ノ考ヲ以テ御出デニナッタデアラウ、同時ニ是レハ國運ノ進行ニ伴ウテ已ム得ザルノ
緊急支出トシテ、違憲ノ考ヲ一方ニ懷キツ、此支出ニ同意ヲ表セラレタデアラウ、私等
ノ考ハ、其桂内閣ノ三十七年以降年々桂内閣ノ存立シテ居タ間、毎年剩餘金ノ支
出ガアッタノデアリマス、若シ無カッタ年ガアッタスレバ二十四年唯一度、此例年ノ失態
ヲ大隈内閣ニ繰返サセタクナイノデアリマス、故ニ大隈内閣ニ向ッテ、此等ノ疑義ヲ解
決スルニ足ルノ適當ナル計畫ヲ要求スルモノナノデ、其要求ノ貫徹セラレ、マデハ私等ノ
考ヘテ居ル違憲ハ永久ニ繼續スルノデアリマス、私等ハ決シテ違憲論ヲ抛ッテ居リマセヌ、
違憲論ノ主張ハ、今後剩餘金ノ支出セラル、其年度ノ續ク間ハ存スルノデアリマス、唯
斯ノ如キ問題ハ——二十年來ノ習慣ヲ追ヒ來タル問題ハ一朝一夕ノ間ニ解決スルコ
トハ出來ヌ、或ハ一内閣一議會ノ間ニ解決スルコトハ出來ヌ、故ニ大隈内閣ニ更ニ今
後ノ努力ヲ求ムルノデアリマス、今回ノコトハ致方ガナイ、連年ノ豫算不成立ノ後ヲ受ケ
テ日獨戰爭ノ影響ヲ受ケ、又歐洲大動亂ノ影響ヲ受ケテ、今日ノ支出ガアッタコトハ已
ム得ナイトスルガ、併シ之ニ鑑ミテ今後ヲ戒メヨ、今後ニハ決シテ斯ノ如キ支出ヲ試ム

可カラズト云フコトヲ警告スルト同時ニ、其解決ノ手段ヲ要求スル、是ガ中正會ノ立場
デアリマス、私ハ長島君等ガ桂内閣ヲ愛スルコト、若クハ政友會ノ諸君ガ政友會ノ内
閣ヲ愛スルコトガ、吾等ノ大隈内閣ヲ愛スルノ情ニ如カナカッタコトヲ遺憾トスル、若シ桂
内閣ヲ愛シ、山本内閣ヲ愛シ、總テノ政友會内閣ヲ愛スルノ至情ガアッタナラバ——赤
誠ガアッタナラバ、斯様ナル剩餘金ノ支出ヲ、已ム得ザト經驗セラレタ機會ニ於テ、其剩
餘金ノ支出ヲ杜絶スベキ方法ヲ必ズ講究セラレタニ相違ナイ筈デアル、ツレモ講究セラレ
ナカッタノヲ、私等ハ當時ノ政友會諸君、當時ノ長島君等ノ爲ニ遺憾トスル、私ハ斯ノ
如キコトヲ繰返サセタクナイ、大隈内閣ヲ愛スル至情ニ於テ今日ノ習慣ニ於テ支出シ
タルモノハ已ム得ザト認ムルモ、將來ヲ鑑戒セヨト要求スルノデアリマス、此考ヲ以テ暫
ク忍ビ今日ノ事後承諾案ニ承諾ヲ與ヘ、藉スニ時日ヲ以テシテ、大隈内閣ガ此改善
ニ更ニ一層ノ力ヲ效サント希望スルノデアリマス

(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 荒川五郎君

○荒川五郎君 贊成反對雙方ノ所論盡キタト認メマスカラ、討論終結ノ動議ヲ提出
シマス

(「贊成々々」聲起ル)

○議長(島田三郎君) 定規ノ贊成ガアリマスカ

(「贊成々々」聲起ル)

○議長(島田三郎君) 定規ノ贊成アリト認メマス

(「大ニ異議アリ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 異議アリノ聲モ聞エマスカラ採決致シマス、荒川君ノ動議、即
チ討論終結ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(島田三郎君) 多數ト認メマス、討論ヲ終結致シマシタ、是ヨリ採決ニ移リマ
ス、採決ニ付テ議長ヨリ其順序ヲ述ベマス、先ヅ明治四十五年度大正元年度、大正二
年度大正三年四月ヨリ大正四年五月ニ至ル各年ニ於ケル豫備金外ニ於テ豫算超過
及豫算外支出ノ件、全部ニ對シテ不承諾ト云フ説ガ出テ居リマス、第二ニ大正三年
四月ヨリ大正四年五月ニ至ル豫備金外支出ノ件中、各省ニ互ル大正三年度四年度
臨時事件費陸海軍省ノ臨時軍事費内務省ノ東京外九市ノ水道費補助、四日市外
三港修築費補助、次ニ大藏省ノ所管米價調節農商務省ノ所管帝國蠶絲株式會社
助成金ニ對シ不承諾ト云フ説ガアリマス、此二説ノ細目ニ付テ御異議ハナイト認メマ
ス——先ヅ剩餘金全部不承諾此方ヲ採決致シマス、次ニ大正三年四月ヨリ大正四
年五月ニ至ル豫備金外支出中或ル一部分不承諾ト云フ説ヲ採決致シマス、終リニ委
員長ノ報告ニ付採決ヲ致シマス、御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 御異議ナシト認メマス、剩餘金支出全部不承諾ト云フニ贊

成ノ諸君ハ起立ヲ願ヒマス

起立者 少數

○議長(島田三郎君) 少數アリマス、剩餘金支出一部不承諾ト云フニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(島田三郎君) 少數アリマス、委員長報告通り即チ明治四十五年度大正元年度豫備金支出ノ件外十件、全部ニ承諾ヲ與ヘルト云フ説ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(島田三郎君) 多數ト認メマス、(拍手起ル)異議ノ申立ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 全部承諾ヲ與フルコトニ決シマシタ

(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 日程第六、米價調節ノ調査機關設立ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者山田珠一君

第六 米價調節ノ調査機關設立ニ關スル建議案(山田珠一君外一提名出)

米價調節ノ調査機關設立ニ關スル建議案

米ハ我カ國民ノ主要食物ニシテ我カ國生産品中ノ主位ヲ占ム其ノ生産額ノ多寡價格ノ高低ハ直ニ財政經濟ニ甚大ノ影響ヲ來スヲ免レス故ニ其ノ價格ヲ適當ニ調節維持スルハ財政上ヨリ言フモ經濟上ヨリ言フモ將タ社會政策上ヨリ言フモ重要ナル問題タルコト言フ俟タズ昨年來米價非常ニ低落シテ農家ノ購買力全ク衰ヘ隨テ商工業亦大ニ打撃ヲ受ケ我カ國ノ產業界ヲ舉ゲテ將ニ大恐慌ヲ來サムトスルノトキニ當リ政府力責任支出ヲ以テ米價ノ調節ニ力ヲ致シタルハ洵ニ機宜ノ處置タルヲ失ハスト雖是レ臨機應變一時ノ對症療法タルニ過キスシテ固ヨリ永遠ノ策ニ非ス故ニ政府ハ速ニ適當ナル組織ニ據ル調査機關ヲ設ケテ此ノ至重至大ナル問題ノ解決ニ努メラレムコトヲ望ム

右建議ス

(山田珠一君登壇)

○山田珠一君 極メテ簡單ニ本案提出ノ主旨ヲ陳述致シマス、本案ハ米價調節ニ就テ適良ノ方法ヲ得ルガ爲ニ、其調査機關ヲ設置シテ貫ヒタイト云フ建議案アリマス、先刻來米價調節ノコトニ就キマシテハ種々御議論ガアリマシタガ、之ニ就テ吾々ハ政府ガ昨年冬ニ當テ、米價下落シテ一般ニ非常ノ影響ヲ及ボスコトヲ憂慮シテ、米ノ

買上ヲ斷行致シマシタコトニ就テハ適當ノ處分、又適當ノ方法アルト云フコトヲ信ジテ疑ハナイ者デゴザイマス、併ナガラ此政府ノ執ラレタル所ノ方法ハ所謂對症ノ療法デアリマシテ一時ノ急ニ應ズルコロノ處分アル、之ヲ永久ニ實行シテ果シテ適良ノ方法デアルカ否ヤト云フコトハ、一ノ疑問トナルト考ヘルノデアリマス、尙研究熟慮致シマシタナラバ、更ニ之ニ優レ所ノ適良ノ方法ガアリトシナイカト云フコトハ、一ノ問題アルト考ヘルノデアリマス、尙又米價調節ナルモノハ單リ米價ノ大下落ノ時ニ於テ必要ヲ感ズルノミナラズ、米價ノ大騰貴ノ時分ニ於テモ、亦其必要ヲ感ズルノデアリマス、御承知ノ如ク米ハ我國民ノ常食デアリマシテ、我生産品中ノ最重要ノ位置ヲ占メテ居ルモノデゴザイマシテ、此價格ノ高低ト云フモノハ一般ノ經濟界、延イテハ財政ニモ多大ノ影響ヲ與ヘルモノデゴザイマス、此米價大騰貴ヲシタル場合、即チ近ク一昨年ノ如キ東北ノ饑饉ニ依テ大騰貴ヲ致シタ時分ニハ、此米價ノ大騰貴ヲ致シタガ爲メニ、一般ニ非常ナル困窮ヲ訴フル聲ガ盛ニ起テ、如何ニカシテ此米價ノ調節ヲ計ラナケレバナラヌト云フ訴ガ諸所ニ起ツタノデアリマス、若シ一昨年ニ致シマシテモ尙米價ガ更ニ騰貴シ、又大騰貴ノ趨勢ガ久シク繼續致シマスレバ、或ハ社會上由々シキ變動ヲ起シタカモ知レナイト云フ有様デアッタノデアリマス、斯ル場合ニ於テ之ヲ農政上ヨリ袖手傍觀スルト云フコトハ、決シテ宜シキヲ得タモノト云ハレヌト考ヘルノデアリマス、殊ニ米價ノ大下落ヲスル場合ニハ、國民ノ大部分ヲ占メタルコロノ農民ハ、直チニ其影響ヲ蒙リ、農民ノ購買力ガ大ニ減退スル結果ハ延イテ商工業ニモ及ビマシテ、一般ノ大不景氣ヲ招クコトニナルカラ、其影響ノ及ブトコロハ測ルベカラザルモノガアラウト考ヘルノデアリマス、故ニ米價ノ大ニ騰貴スル場合ニ於テ、又大ニ下落スル場合ニ於テモ爲政者トシテ之ヲ傍觀座視スルト云フコトハ決シテ親切ナ態度トハ申サレヌト思フノデアリマス、故ニ如何ニカシテ此大騰貴大暴落ニ對シテ相當ノ救済方法ヲ講ズルト云フコトハ、今日以後ニ於テ最モ必要ナルコト、考ヘルノデアリマスガ、此問題ハ頗ル重大ナルダケ、ソレダケ此方法ヲ研究スルト云フコトハ又頗ル困難デアラウト考ヘルノデアリマス、救済法トシテハ或ハ政府ガ直接ニ手ヲ下スコトモアラウシ、又國家ガ間接ニ指導保護ヲ與ヘネバナラヌコトモアラウト思フ、其方法ハ種々アリマセウガ、免ニ角適良ノ方法ヲ攻究シテ、將來ノ此米價ノ騰落ニ對スルト云フコトハ、農政上最モ緊要ナルコト、考ヘルノデアリマス、依テ此問題ヲ解決スル爲メニハ成ベク廣ク各方面ノ智識經驗ヲ網羅シテ、適當ナル調査機關ヲ設ケテ調査スルト云フコトハ、要モ緊要ナルコト、考ヘルノデアリマス、是ガ本案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、ドウカ宜シク……

(拍手起ル)

○議長(島田三郎君) 別ニ發議ハゴザリマセヌカ

○荒川五郎君 本案ハ九名ノ委員ヲ議長ニ於テ指名シ、之ニ審査ヲ付託セラレンコトヲ望ミマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(島田三郎君) 御異議ナシト認メマス、依ッテ荒川五郎君ノ勸讀ニ決シマシタ、日程第七、理化學研究所設置ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者ハ加藤彰廉君

第七 理化學研究所設置ニ關スル建議案(加藤彰廉君外三名提出)

理化學研究所設置ニ關スル建議案

理化學研究所設置ニ關スル建議

文明ノ進步國運ノ發展ハ專ラ理化學的研究發明及之カ應用ノ結果ニ俟ツヘキハ言ヲ要セサル所ナリ之ヲ歐米先進國ノ實例ニ徴スルニ英國ニハ國立物理學研究所アリ佛國ニハ工藝試驗所アリ米國ニハ國立標準局アリ獨逸ニハ國立理工學研究所及「ウィルヘルム」帝化學研究所アリ概ネ國家的若ハ公共的施設ニ屬シ其ノ他富豪篤志者等ノ經營ニ係ルモノ舉ゲテ數フヘカラス列強ノ今日アル淵源スル所深シト謂フヘシ今ヤ我カ帝國ハ數回ノ戰役ヲ經テ國威倍揚リ國際ノ位置又愈重キヲ加ヘ文物制度斐然トシテ備ハルモノアリト雖獨リ理化學ノ研究及之ニ關スル發明應用ニ至テハ依然トシテ他ノ模倣追隨ヲ事トスルニ過キス進テ獨創ノ研究革新ノ發明ヲ試ミムトスルモ之カ設備ト機關トニ缺如タルハ國家ノ爲真ニ遺憾ニ堪ヘサルナリ殊ニ今次歐洲ノ戰亂以來彼我交通貿易ノ杜絶セラレタル結果我カ軍事、醫術、工業ノ原品ノ一部ニ對シテ獨立自給ノ途ヲ講スルノ必要特ニ痛切ナルヲ感シタルハ一般ノ認ムル所タリ政府ハ宜シク範ヲ歐米先進國ニ探リ此ノ際速ニ適當ノ計畫ヲ定メ國立理化學研究所ヲ設置シ以テ大ニ國民獨創ノ研究發明ヲ獎勵涵養シ百般工業ノ根本ヲ啓沃シテ國運ノ興隆文明ノ進暢ニ資スルヲ策ヲ樹ツヘシ是レ當ニ國家百年ノ大計ヲ樹ツル所以ノミナラス又以テ 今上陛下御即位ノ大典ヲ紀念スヘキ國家的一大盛事タルヲ信スルナリ

右建議ス

(加藤彰廉君登壇)

(拍手起ル)

○加藤彰廉君 私ハ多數ノ贊成ノアリマスル此理化學研究所設置案ニ對シマスル理由ヲ述ベマスル任ニ當リマシタノハ、洵ニ光榮トスルコロゴザイマスル、此案ハ贊成者ガ多數御出ニナリマスル、其外他ノ御方モ伺ヒマスルコトニ依リマスル、殆ド皆御同意ノヤウデアリマス、殊ニ世間ニ置キマシテハ此研究所ヲ設定スルコト云フコトハ、今日ニ於テ最も必要デアルト云フコトハ世間ノ識者モ認メテ之ヲ唱道シテ居ルノデアリマスルカラ、此事ニ付キマシテハ詳シク其理由ヲ申述ヘル必要ハアリマセヌノデ、極ク簡單ニ大意ダケヲ申述ベタリト思ヒマス、諸此明治ノ文明進步ノ著シキ長足ノ進歩ヲナシマシタコトハ、是ハ先進文明國ヲ驚嘆セシメタコトデアリマスル、併ナガラ其文明ノ由テ來リマシタ所、竝ニ其狀態ニ付テ見マスルコト云フト、私ハ決シテ是ヲ満足スベキモノデナイト思フデアリマス、何ントナレバ明治ノ文明ハドウシテ出來タモノデアアルカト云ヘバ、一言ニシテ申セバ是ハ外國

ノ模倣ニ依ッテ出來タモノデアリマスル、外國カラ其文物制度、其他有ラユル百般ノモノ、之ヲ採テ外國ノ真似ヲシテ出來タモノデアリマスル、外國カラ輸入シタモノデアリマスル、是ハ幕府三百年ノ情眼ヲ破リマスル必要ノアツタ時代ニ於キマシテハ、此事ハ最も大切デアリマシタ、併ナガラ今日ノ時代ニ於キマシテハ最早外國ノ模倣、外國ノ輸入ト云フダケデハ決シテ此國ノ基礎ヲ固クシ國民經濟ヲ堅クスルコト云フコトハ出來ナイノデアリマスル、今日ハ必ラズ自給自足ノ國民經濟ノ基礎ニ依ッテ行カナケレバナラヌト思フデアリマスル、國民經濟ノ基礎ガ自給自足ノ主義ニ據ラナケレバ、決シテ國家ノ獨立ハ確固ニナルモノデハナイト思ヒマスル、今日諸君ハ歐洲大動亂ノ爲メニ蒙リマシタ——現ニ蒙リツ、アリマスルコロノ戰國ノ經濟狀態、產業社會ノ有様ヲ御覽ニナリマスレバ、決シテ今日迄ノ如ク唯外國ノ真似ヲシ、外國ヨリ輸入スルコロノ輸入ニ依ッテハ決シテ行クモノデナイト云フコトハ、御分リニナルデアラウト思ヒマス、數千里ヲ距ッテ居ルコロノ外國ニ於テ戰爭ガアリマスルタメニ、外國カラ金ヲ借リルコトガ出來ナクナッタガタメニ、茲ニ非募債主義ヲ執ラナケレバナラヌト云フヤウナ狀態ニナッタリ、或ハ輸入杜絶ノタメニ俄ニ染料或ハ藥品ノ製造會社ヲ起サナケレバナラヌト云フヤウナ、今日狀態ヲ實驗ナサレテ居ル諸君ハ、必ラズ今日以後ト云フモノハ、自國ノ力ヲ以テ立ツコロノ產業政策ト云フモノヲ確立シナケレバナラヌト云フコトヲ御承知ニナラウト思フデアリマス、故ニ私ハ今日ハ產業ノ獨立ヲ圖リ、國富増進ノ根本政策ト云フモノヲ立テナケレバナラヌト思ヒマス、サウシテ國民經濟ノ基礎ヲ固クシ、然後始メテ國ノ獨立ト云フモノガ名實共ニ得ラレルノデアルト思ヒマス、然ラバ今日ノ場合ニ於キマシテ此產業ノ方策、國富増進ノ根本方策ハ何デアアルカト申セバ、私ハ是ハ高遠ナル理化學ノ研究ニ依ッテ得ラレルモノデアラウト思ヒマス、今日ノ產業ハドウシテモ高遠ナル理論ニ基イタモノデナケレバ、決シテ大ナル發展スルコトハ出來ヌノデアリマスル、今日素ヨリ我國ニ於キマシテモ、各地方ニ工業試驗所ト申サウナモノハ少シツツアリマスケレドモ、是等ハ國家ノ產業ノ基礎ヲ定メルコロノ權威アルコロノモノトハ私ハ認メナイノデアリマス、今日ノ歐米ニ於キマスルコロノ狀態ヲ見マシテモ、何レノ國ニ於キマシテモ、高遠ナルコロノ理化學研究所ト云フモノガ設ケテアリマシテ、其タメニ官民共ニ大ナル力ヲ盡シテ居ルノデアリマス、獨逸ニ於キマシテハ國立理化學研究所ガアリマス、又英吉利、佛蘭西、亞米利加ニ於キマシテモ皆力ヲ盡シテ、高遠ナル理論ヲ研究スルコロノ理化學研究所ト云フモノガ置イタルノデアリマス、ソレデ私ハ此機會ニ於キマシテ、我國ニモ官民共同シテ、一ノ大ナル規模ヲ有スルコロノ理化學研究所ヲ設立シ、之ニ依テ我國ノ產業ノ所謂參謀本部ト云フヤウナモノニナリ、又發電所ト云フヤウナモノニナツテ、サウシテ是ガ本トナツテ日本全國ノ產業ヲ發達スルコロノ根本ニシタリト云フ考デアリマス、殊ニ本年ハ之ヲ設ケマスニ付テ、最も好イ時機デアルト考ヘルノデアリマス、ソレハ御承知ノ如ク今秋ニ於キマシテハ御大禮ガアルノデアリマス、御一代一度ノ御大禮デアリマシテ吾々國民ハ此大禮ニ付キマシテハ、最善ノ方法ヲ以テ之ヲ奉祝セントスル者デアリマス、之ニ付キマシテ私ハ此理化學研究所——大規模ノ理化學研究所ト云フモノヲ設ケテ行キマスルコト云フコトハ、此御大禮ヲ奉祝ス

ルトコロノ大ナル記念トモナリマス、又一ニハ此千載一遇ノ御大禮ニ際シマシテ、吾々國民ガ遭遇シマシタコロノ光榮ヲ、子孫ニ傳ヘルトコロノ記念トモ致シ、又一ニハ國民ガ一致シテ、奉公ノ幾分ノ微衷ヲ盡ストコロノモノトモナラウカト信ズルノデアリマス、ツレデ斯ノ如キ趣意ニ因リマシテ、私ハ滿場諸君ガ一致ヲ以テ、此案ニ御賛成アラントヲ熱望スルノデアリマス（拍手起ル）

○相島勘次郎君 質問ガアリマス

○議長（島田三郎君） 質問デスカ

○相島勘次郎君 提出者ハ此事ニ付テ一年ノ位ノ金ヲ使フトカ、或ハ計畫ニ付テ資本金ヲドノ位用井テ、ドノ位ノ計畫ヲスルト云フ御見込デモゴザイマセウカ

○加藤彰廉君 約一千万圓ノ金ヲ以テヤリタイ考デゴザイマス、尙詳細ノコトハ委員會デ御話ヲ致シマス

○相島勘次郎君 議長

○議長（島田三郎君） 相島君

○相島勘次郎君 ツレナラバ政府ニ伺ヒタイ、曾テ吾々ハ化學研究所ナルモノヲ起サナケレバナラヌト云フ議論ヲ以テ、サウシテ世ノ中ニ之ヲ發表シタコトガアツタデアリマス、而シテ其趣意モ亦提出者ト同様デアツテ、御即位ヲ記念シタイト云フコトガ其一デアリマシタ、然ルニ今日遞信大臣デアルトコロノ武富君ガ、國民黨ハ氣ガ違ツタ、氣違ヒデアルト云フコトヲ評サレタデアアル、今日モ尙且左様ナ説ヲ持ツテ居ラル、ナラバ、政府ガ反對ヲスルカモ知レナイ、サウ云フ吾々ノ案ヲ氣違ヒデアルトマデ極論サレタ遞信大臣ガ、内閣ニ在ラル、ケレドモ、然レドモ今日此案ニ賛成スルノ考デアルカ否ヤ、ツレバ政府ニ伺ヒタイノデアアル

（「居ナイ居ナイ」ト呼フ者アリ）

○荒川五郎君 議長

○議長（島田三郎君） 荒川君

（「政府委員ノ説明ガナイ」ト呼フ者アリ）

○議長（島田三郎君） 荒川五郎君ニ發言ヲ許シマシタ

○荒川五郎君 唯今ノ御質問モアリマスノデ即決ハ致シマセヌカラ、委員會デ十分御質問モ出來マス、本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

（「賛成々々」ト呼フ者アリ）

○議長（島田三郎君） 御異議ハアリマセヌカ

（「異議ナシ異議ナシ」ト聲起ル）

○議長（島田三郎君） 異議ハナイト認メマス、荒川君ノ動議ノ如ク決シマシタ——次ノ月曜日ニ例刻本會ヲ開キマス、議事日程ヲ報告シ竝ニ其他ノ事モ併セテ茲ニ報告致シマス

（書記朗讀）

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

航空學講座設置ニ關スル建議案

提出者 田川 大吉郎君

決議案

提出者 原 敬君

岡崎 邦輔君

小川 平吉君

和氣神社昇格ニ關スル建議案

提出者 阪本 金彌君

池田 寅治郎君

小橋 藻三衛君

成清 博愛君

蠶絲業救済ニ關スル建議案

提出者 岡崎 久次郎君

高木 正年君

鳥居 錦次郎君

降旗 元太郎君

蠶絲業向上發展ノ調査機關設置ニ關スル建議案

提出者 岡崎 久次郎君

高木 正年君

鳥居 錦次郎君

降旗 元太郎君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

提出者 中山 梅治郎君

岩本 平藏君

貴族院ハ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

鐵道敷設法中改正法律案

明治三十三年法律第五十號中改正法律案

又左ノ政府提出案ニ對シテハ承諾スルコトヲ議決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

大正四年勅令第十一號（承諾ヲ求ムル件）

議事日程 第十二號 大正四年六月七日（月曜日）

午後一時開議

第一 要塞地帶法中改正法律案（政府提出）

第二 軍人恩給法中改正法律案（外一名提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第一讀會ノ續（委員長報告）

第三 衆議院議員選舉法違反事件檢舉ニ關スル建議案(大場茂馬君提出)

第四 支那内地佛敎布敎權ニ關スル建議案(井手三郎君提出)

第五 航空學講座設置ニ關スル建議案(田川大吉君提出)

第六 出征軍人家族廢兵、戰病死者遺族救護ニ關スル建議案(林毅陸君外三名提出)(委員長報告)

第七 地方裁判所支部ノ權限復舊ニ關スル建議案(津原武君外三名提出)(委員長報告)

第八 區裁判所復舊ニ關スル建議案(樋口秀雄君外二名提出)(委員長報告)

第九 航空事業國庫補助ニ關スル建議案(兒玉亮太郎君外三名提出)(委員長報告)

第十 決議案(原敬君外八名提出)

○議長(島田三郎君) 委員ノ氏名ハ公報ヲ以テ御報告致シマス、今日ハ散會致シマス

午後四時五十八分散會